平成30年度

静岡県済生会事業報告書

社会福祉法人恩賜財団済生会支部静岡県済生会

済　生　会　基　本　原　則

社会福祉法人恩賜財団済生会は、済生勅語にみられる「施薬救療」の精神を承けて済生の実を挙げ、社会福祉の増進を図ることを目的として設立された。

以来、全国にわたり医療機関及びその他の社会福祉施設等を設置して定款に記された事業を行っている。

平成30年度静岡県済生会経営方針

済生会の理念と役割の実践

支部理事会を意思決定機関とし、支部長に幅広い権限が一元化された静岡県済生会の業務執行体制は５年目に入り、その機動的かつ効率的な組織運営体制のメリットを最大限生かし、変化する経済・社会状況や経営環境に的確に対応しつつ、安定した経営基盤を確立・強化するとともに、本支部の「施薬救療」の具現化と社会的使命をより一層発揮するため、「第２期中期事業計画」を策定し、その着実な推進に努める。

１　済生会ブランドの構築のために

「施薬救療」の精神を具現化した無料低額診療事業は、済生会活動の原点である。この事業の一層の推進と生活困窮者への支援事業の充実並びに医療・福祉サービスの積極的な推進を図る。全職員がこの事業への理解を深め、幅広くかつ積極的に実行することにより済生会のブランドが確立する。

２　わが国最大の医療・福祉団体としての活動と役割

生活に密着した心温まる医療・福祉サービスを提供する。

また、切れ目のない医療・福祉サービスを提供するためには、あらゆる種類の医療・福祉サービスが密接に連携する必要があり、この面でも先導的な役割を果たしていく。特に、今後の我が国の医療・福祉分野において最重要課題とされる地域包括ケアの形成に向けて、本支部の有する医療・福祉の資源を効果的に活用し、連携を図る取組みを進める。

３　行政・関係団体・地域住民等外部との連携・協力

地域における医療・福祉の需要に応えるため、行政や社会福祉協議会等の他団体との連携・協力などの仕組みを形成し、地域ネットワークのキーステーションとしての役割を担う。

４　良質な人材の確保、や、「施薬救療」の精神を実践する「済生会人」の育成に努め、サービスの向上と組織体制の強化を図る

５　ガバナンスの確立とコンプライアンスの徹底を図るとともに、危機管理体制の万全な備えに一層努める

目　　次

○　平成 30 年度事業報告　（案）　　頁

1　静岡県済生会支部事務局 …… 1

2　静岡県済生会監査室 …… 13

3　静岡済生会総合病院 …… 15

4　静岡医療福祉センター児童部 …… 19

5　静岡医療福祉センター成人部 …… 23

6　静岡医療福祉センターライトホーム …… 25

7　静岡市発達障害者支援センター …… 27

8　伊豆医療福祉センター …… 29

9　静岡県川奈臨海学園 …… 32

10　静岡市心身障害児福祉センター「いこいの家」 …… 35

11　小　鹿　苑 …… 38

12　小鹿なでしこ苑 …… 42

13　静岡市桜の園 …… 44

14　静岡市心身障害者ケアセンター …… 50

15　ワーク春日 …… 54

16　静岡済生会看護専門学校 …… 56

17　静岡済生会訪問看護ステーションおしか …… 58

※各記載事業の記号は次のとおりです。

㊞・・指定管理による事業

㊉・・自治体からの委託事業

※（　　）内は平成 29 年度実績

１　静岡県済生会支部事務局（共通事業）

基本理念

　済生会創立の「施薬救療」の理念の下、静岡県済生会の各施設の連携を図り、その総力を挙げて質の高い医療・福祉サービスを提供し、安心・安全な地域医療・福祉の実現に寄与する。

平成 30 年度目標及び結果

目標１　安心・安全な地域医療・福祉の増進

（1）病院及び各施設と連携した生活困窮者支援事業の積極的推進　　目標数：1,844 名

結果　実績 2,669 名（2,064 名）内訳：ホームレス 118 名(96 名)、高齢者及び障害者 1,514 名（1,099 名)、刑余者 16 名（3 名)、外国人 211 名（256 名)、母子児童 175 名（128 名)、その他 635 名（482 名)（詳細は、７～12 ページ)

（2）静岡県済生会地域包括ケア推進方策の検討

・済生会地域包括ケア連携士の有効的な活用

・施設間の連携及び社会資源との連携について推進

結果　済生会地域包括ケア連携士(８名)を中心とした新たな委員会を組織し、施設間の連携等について協議、検討を進めた。病院と施設間の意思疎通、共通理解を図ることを目的とした「施設連携懇話会」(２回)を開催した。

目標２　各施設の円滑かつ安定的な運営支援

（1）施設整備や事業推進上の課題解決等に係る支援

・川奈臨海学園の建替計画、病院の施設整備等の推進ほか

結果　施設の経営改善、改築問題に対して側面から施設への支援を行った。

（2）職員研修や人事評価制度等の人材育成の充実・強化

・体系的な職員研修の構築、階層毎研修の開催

結果　総務職員、経理職員研修及び直接処遇職員階層別研修の実施(３ページ)参照

・人事評価制度導入に向けた検討及び試行

結果　試行に向けての福祉施設職員への説明会の開催（9 施設 17 回、1 月～3 月）

※評価者研修及び試行は次年度の実施とする）

（3）適切な会計経理処理に対する支援の強化

・公認会計士による指導

結果　監査人による追加訪問調査等訪問指導

・会計経理担当職員研修会の開催

結果　年２回の実施

目標３　静岡県済生会事業の積極的広報による市・県民との信頼関係の構築

（1）静岡県済生会ホームページによる情報発信の強化

結果　平成 31 年度更新予定

（2）病院及び各施設の情報発信の促進

目標４　新聞等マスコミへの露出

結果　支部理事会において「報道で見る静岡県済生会」で報告

（１）支部事務局運営事業

社会福祉法人恩賜財団静岡県済生会の法人管理並びに運営事務について、次のとおり事業を行った。

ア　支部理事会の開催・・８回開催（７回）

	開　催　日	場　　所
第１回	平成30年　５月　10日	グランディエール ブケトーカイ
第２回	平成30年　５月10日	〃　　〃
第３回	平成30年　７月25日	静岡グランドホテル中島屋
第４回	平成30年　７月25日	〃　　〃
第５回	平成30年９月19日	グランディエール ブケトーカイ
第６回	平成30年11月28日	ホテルアソシア静岡
第７回	平成31年１月31日	〃　　〃
第８回	平成31年　３月25日	グランディエール ブケトーカイ

※議案については、議案説明資料参照

イ　諸会議の開催

会　議　名　称	回
・支部事務局会議	19（20）
・支部執行会議	６（５）

ウ　済生会本部等との連絡調整

会　議　名　称	回
・支部長会議（本部）	２（２）
・全国済生会支部事務責任者会議（新潟県支部） 〔H25までは、全国済生会常勤常務(業務担当)理事協議会〕	１（１）

エ　医療施設及び社会福祉施設等の有機的な連携を図るための連絡調整

会　議　名　称	回
・静岡県済生会地域包括ケア未来構想委員会(懇話会含む) (H29までの静岡県済生会地域包括ケア推進検討委員会を継続)	９(11)
・静岡県済生会福祉医療施設長懇話会	０（１）

オ　第三者委員会の運営に係る業務・・２回(２回)

	開　催　日	場　　所
第１回	平成30年８月31日	静岡医療福祉センター
第２回	平成30年12月21日	〃

カ　職員研修事業の実施

担当部署	開　催　日	内　　容
総務管理課 第１回	平成 30 年４月３日	「新人オリエンテーション」 ・「コンプライアンス」 ・無料低額診療事業説明 新規採用職員 128 名出席 ・マナーセミナー（４月４日）
総務管理課 第２回	平成 30 年 10 月 26 日	・職員採用について ・就業規則、給与規程について ・人事評価制度の導入について 22 名参加
財務課 第１回	平成 30 年 11 月 16 日	固定資産内部統制マニュアルの運用 固定資産会計処理マニュアルの運用 附属明細書に関する注意 17 名参加
財務課 第２回	平成 31 年３月 15 日	会計担当者研修 ・福祉医療機構電子申請変更講習 ・決算事務等について　18 名参加
企画課 第１回	平成 30 年６月 22 日	「業務副主任研修」 済生会について グループワーク 10 施設 21 名（10 施設 21 名）
企画課 第２回	平成 30 年７月 27 日	「業務中堅研修」 済生会について グループワーク 11 施設 23 名（11 施設 22 名）
企画課 第３回	平成 30 年９月 21 日	「業務新人研修」 済生会について グループワーク。 ８施設 19 名（８施設 19 名）
企画課 第４回	平成 30 年 11 月 16 日	「業務主任研修」 済生会について グループワーク ７施設 13 名（８施設 14 名）

キ　その他

・実習担当職員打ち合わせ会(新規)

第１回	平成 30 年５月 15 日	「就活で選ばれる施設になるためには」 12 施設 15 名
第２回	平成 30 年 10 月 31 日	「半年間の実践報告と今後の課題」 12 施設 15 名

・法人の管理運営に係る業務（会計事務所等による会計監査及び監事監査）
対象・・全施設

	開　催　日	対象
公認会計士事務所による会計監査	平成 30 年４月 19 日、20 日 21 日、23 日	全施設
監事監査	平成 30 年４月 26 日	全施設

･行政機関（静岡県、静岡市）による指導監査への立会い

（２）生活困窮者支援事業

生活困窮者総合支援事業（なでしこプラン）を病院、各施設とともに推進、展開した。　（※各施設別詳細については、5 ページ～10 ページ参照）

また、就職相談会、介護フェア等においても無料低額診療事業等のパンフレット配布を行い、啓発活動を実施した。

（３）静岡県済生会職員共済制度事業

職員及び家族の福利厚生の向上を図るため、各種給付及び貸付事業を実施した。実績は、次のとおりであった。

	平成 30 年度		平成 29 年度	
事　業　名	人数（名）	決算額（円）	人数（名）	決算額（円）
退職共済事業給付金	35	147,196,538	31	99,047,870
医療共済給付金	6,007	35,722,906	5,794	33,692,702
職員共済制度資金貸付事業	0	0	0	0

（４）施設整備等への支援

ア　総合病院事業施設整備支援

新東館と北館を繋ぐ連絡通路棟工事への支援を行った。

イ　静岡県川奈臨海学園

施設の小規模化と施設機能の地域分散化を目的とした「家庭的養護の推進計画」を策定するに当たり、県の所管課及び関係機関と老朽化した施設の建て替えも視野に入れ、今後の学園の在り方について継続して協議を行った。

（５）その他

福祉楽市への出展　平成 30 年 10 月 18 日、19 日　松坂屋８階催事場
児童虐待防止静岡の集いへの参加　平成 30 年 11 月 10 日

平成３０年度社会福祉法人恩賜財団済生会支部静岡県済生会支部理事会議案一覧

開催日		次第	内容	可否
第１回	H30.5.10	第１号議案	社会福祉法人恩賜財団済生会支部静岡県済生会支部理事の委嘱について	承認
		報告事項	ア　平成30年度支部役員人事について	
第２回	H30.5.10	第１号議案	平成29年度社会福祉法人恩賜財団済生会支部静岡県済生会積立資産積立について	承認
		第２号議案	平成29年度社会福祉法人恩賜財団済生会支部静岡県済生会事業報告について	承認
		第３号議案	平成29年度社会福祉法人恩賜財団済生会支部静岡県済生会決算報告について	承認
		第４号議案	社会福祉法人恩賜財団済生会支部静岡県済生会第三者委員の選任について	承認
		報告事項	ア　静岡県済生会支部理事の委嘱について	
			イ　静岡市指導監査における指摘事項と是正・改善計画について	
			ウ　静岡市桜の園第三者評価受審結果について	
			エ　報道で見る静岡県済生会のこの１年	
			オ　第３６回児童文化奨励絵画展	
			カ　済生会フェアについて	
第３回	H30.7.25	第１号議案	社会福祉法人恩賜財団済生会支部静岡県済生会支部理事の委嘱について	承認
第４回	H30.7.25	第１号議案	平成30年度静岡県済生会施設整備計画の追加について	承認
		報告事項	ア　静岡県済生会支部理事の委嘱について	
			イ　平成29年度計算書類の修正について	
			ウ　報道で見る静岡県済生会のこの１年	
第５回	H30.9.19	第１号議案	社会福祉法人恩賜財団済生会支部静岡県済生会支部規則の一部改正について	承認
		第２号議案	平成30年度静岡県済生会事業計画の一部改訂について	承認
		第３号議案	平成30年度静岡県済生会収支予算の補正について	承認
		第４号議案	静岡医療福祉センター児童部(医療型障害児入所施設)運営規程の一部改正について	承認
		第５号議案	静岡医療福祉センター児童部(短期入所)運営規程の一部改正について	承認
		第６号議案	静岡県川奈臨海学園運営規程の一部改正について	承認
		第７号議案	指定管理者の指定に係る申請について	承認
		報告事項	ア　静岡県川奈臨海学園施設整備計画(案)について	
			イ　静岡県川奈臨海学園指導監査指摘事項について	
			ウ　報道で見る静岡県済生会について	
第６回	H30.11.28	第１号議案	2019年度静岡県済生会施設整備の計画について	承認
		第２号議案	静岡済生会総合病院長期施設整備資金借入の承認について	承認
		報告事項	ア　静岡済生会総合病院半期決算報告について	
			イ　静岡済生会総合病院短期施設整備資金借入結果について	
			ウ　静岡済生会総合病院外構工事等入札結果について	
			エ　報道で見る静岡県済生会について	
第７回	H30.1.31	第１号議案	静岡済生会総合病院長期施設整備資金借入の承認について	承認
		第２号議案	平成31年度社会福祉法人恩賜財団済生会支部静岡県済生会事業計画について	承認
		第３号議案	平成31年度社会福祉法人恩賜財団済生会支部静岡県済生会収支予算について	承認
		第４号議案	平成31年度社会福祉法人恩賜財団済生会支部静岡県済生会職員定数について	承認
		第５号議案	社会福祉法人恩賜財団済生会支部静岡県済生会施設長候補者の選任及び推薦について	承認
		追加議案①	社会福祉法人恩賜財団済生会支部静岡県済生会支部長候補者の選任及び推薦について	承認
		追加議案②	社会福祉法人恩賜財団済生会支部静岡県済生会施設長候補者の選任及び推薦について	承認
		報告事項	ア　静岡済生会総合病院施設整備資金借入結果について	
			イ　報道で見る静岡県済生会	

平成３０年度社会福祉法人恩賜財団済生会支部静岡県済生会支部理事会議案一覧

開催日		次第	内容	可否
第８回	H31.3.25	第１号議案	静岡済生会総合病院短期運営資金借入の承認について	承認
		第２号議案	社会福祉法人恩賜財団済生会定款変更申請について	承認
		第３号議案	社会福祉法人恩賜財団済生会支部静岡県済生会就業規則の一部改正について	承認
		第４号議案	社会福祉法人恩賜財団済生会支部静岡県済生会有期契約職員就業規則の一部改正について	承認
		第５号議案	社会福祉法人恩賜財団済生会支部静岡県済生会無期転換職員就業規則の制定について	承認
		第６号議案	社会福祉法人恩賜財団済生会支部静岡県済生会給与規程の一部改正について	承認
		第７号議案	社会福祉法人恩賜財団済生会支部静岡県済生会給与規程の手当に関する特別措置規程の制定について	承認
		第８号議案	社会福祉法人恩賜財団済生会支部静岡県済生会組織規程の一部改正について	承認
		第９号議案	静岡医療福祉センター児童部施設預り金等及び遺留金品取扱規程の制定について	承認
		第10号議案	静岡医療福祉センター児童部児童手当にかかる支給金管理規程の一部改正について	承認
		第11号議案	静岡県川奈臨海学園病児保育事業りんかい保育室運営規程の一部改正について	承認
		第12号議案	指定障害者支援施設静岡市桜の園運営規程及び静岡市桜の園城北館運営規程の一部改正について	承認
		第13号議案	静岡市桜の園利用者（入所者）所持金保管・管理規定の一部改正について	承認
		第14号議案	社会福祉法人恩賜財団済生会支部静岡県済生会支部理事の委嘱について	承認
		第15号議案	社会福祉法人恩賜財団済生会支部静岡県済生会名誉院長の称号授与について	承認
		第16号議案	社会福祉法人恩賜財団済生会支部静岡県済生会名誉施設長の称号授与につい	承認
		報告事項	ア　静岡済生会総合病院施設整備資金借入結果について	
			イ　公の施設に係る指定管理者の指定につい	
			ウ　平成30年度静岡市導監査の実施結果について	
			エ　報道で見る静岡県済生会	

第3次なでしこプラン（平成30年度実績）

施設名	事業名	第2次計画 H29年度 実績	第3次計画 H30年度 目標	実績	前年対比	目標対比
静岡済生会総合病院	社会福祉施設等健康診断支援事業	990	900	1096	106	196
	保護観察所等刑余者健診・相談事業	3	5	2	△ 1	△ 3
	児童・ひとり親家庭等健康診断・相談事業	27	30	25	△ 2	△ 5
	生活困窮者等健康診断・相談事業	95	100	118	23	18
	外国人等健康診断・相談事業	128	100	117	△ 11	17
	生計困難者等に対する日用品及び交通費等の支援事業	40	30	15	△ 25	△ 15
	聴力障害者手話通訳支援事業	49	40	31	△ 18	△ 9
	外国人医療通訳支援事業	125	70	93	△ 32	23
	がん患者就労支援事業		5	15	15	10
	無料健康相談事業	0	10	0	0	△ 10
	支部内各施設における無料健康相談	22	27	45	23	18
	ハローワーク健康診断、相談事業	0			0	0
総合病院・小鹿苑・なでしこ苑	啓蒙・周知活動	475	330	845	370	515
小鹿苑	虐待高齢者への緊急受入れ事業	0	1	0	0	△ 1
静岡市桜の園	虐待障害者への緊急受入れ事業	0	2	114	114	112
	少年院在院者奉仕活動実習受け入れ事業	20	16	31	11	15
静岡県川奈臨海学園	保護観察対象者等が行う社会貢献活動の受入れ	14	16	14	0	△ 2
	施設退所者の健康診断補助事業		2	1	1	△ 1
静岡医療福祉センター児童部	障害児療育講座	76	160	107	31	△ 53
なでしこプラン対象者数合計		2,064	1,844	2,669	605	825

平成３０年度なでしこプラン事業報告（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

支部名	静岡県済生会

支援対象	ホームレス	ＤＶ被害者	障害者高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
対象者延数（合計）	118		1,514	16	211	175	635	2,669

施設名	静岡済生会総合病院

事業名	社会福祉施設等健康診断支援事業	内容	健康診断・医療相談	(							)
概要	社会福祉施設（身体障害者関係施設、養護老人ホーム等）と連携し、当該施設又は院内にて、当該施設の利用者を対象に健康診断にかかる費用の免除・減額を行う	支援対象	ホームレス	ＤＶ被害者	障害者高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
		対象者延数			1,095		1			1,096
実施延日数	74	従事者延数	296	支出総額(円)	2,551,575	(内訳)				
特記事項	連携している団体・機関名(済生会以外)	静岡市救護所、静岡老人ホーム、日本平学園、白寿荘、静岡わらしな学園等								
	事業実施上の問題点等(未実施の場合は理由)									

事業名	保護観察所等健康診断・相談事業	内容	健康診断・医療相談	(							)
概要	保護観察所、刑務所、更生保護施設、地域生活定着支援センターと連携し、当該施設又は院内にて、刑余者等を対象に健康診断及び、相談を行う。また、要請に応じて、専門職員を派遣し、ケース会議の実施や専門的助言を行う	支援対象	ホームレス	ＤＶ被害者	障害者高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
		対象者延数				2				2
実施延日数	2	従事者延数	2	支出総額(円)		(内訳)				
特記事項	連携している団体・機関名(済生会以外)	NPO法人POPORO、更生保護施設								
	事業実施上の問題点等(未実施の場合は理由)									

事業名	児童・ひとり親家庭等健康診断・相談事業	内容	健康診断・医療相談	(							)
概要	児童・母子福祉施設、静岡県女性相談センター等と連携し、当該施設又は院内にて入所者を対象に、健康診断及び相談を行う。また、要請に応じて、専門職員を派遣し、ケース会議の実施や専門的助言を行う	支援対象	ホームレス	ＤＶ被害者	障害者高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
		対象者延数						25		25
実施延日数	1	従事者延数	4	支出総額(円)	104,750	(内訳)				
特記事項	連携している団体・機関名(済生会以外)	千代田寮								
	事業実施上の問題点等(未実施の場合は理由)									

事業名	生活困窮者等健康診断・相談事業	内容	健康診断・医療相談	(							)
概要	神奈川県済生会等と共同で横浜市寿町で生活困窮者を対象に、健康診断及び相談を行う。当院は検診車（胸腹部撮影、聴力、視力等搭載）の派遣を行う	支援対象	ホームレス	ＤＶ被害者	障害者高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
		対象者延数	118							118
実施延日数	2	従事者延数	11	支出総額(円)	294,460	(内訳)				
特記事項	連携している団体・機関名(済生会以外)	NPO法人炊き出しの会								
	事業実施上の問題点等(未実施の場合は理由)									

事業名	外国人等健康診断・相談事業	内容	健康診断・医療相談				(		)
概要	「外国人のための無料健康相談と検診会」実行委員会、市医師会等と連携し、外国人を対象に健康診断及び相談を行う	支援対象	ホームレス	ＤＶ被害者	障害者 高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
		対象者延数					117			117

実施延日数	1	従事者延数	36	支出総額(円)	990,362	(内訳)
特記事項	連携している団体・機関名(済生会以外)	外国人のための無料健康相談と検診会実行委員会、静岡市静岡医師会、静岡県弁護士会、静岡県国際交流協会等				
	事業実施上の問題点等(未実施の場合は理由)					

事業名	生計困難者等に対する日用品及び交通費等の支援事業	内容	そ の 他				(	そ の 他	)
概要	ホームレス、身寄りのない生計困難者等を対象に日用品等の支援を行う。また、救命救急受診者で軽傷の場合等には、病院から目的地までの交通費の支給を行う	支援対象	ホームレス	ＤＶ被害者	障害者 高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
		対象者延数							15	15

実施延日数	15	従事者延数	15	支出総額(円)	51,713	(内訳)	交通費支援：9,740円
特記事項	連携している団体・機関名(済生会以外)						
	事業実施上の問題点等(未実施の場合は理由)						

事業名	聴力障害者手話通訳支援事業	内容	診 療				(		)
概要	聴力障害者を対象に、診察及び入院時に手話通訳の支援、調整を行う	支援対象	ホームレス	ＤＶ被害者	障害者 高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
		対象者延数			31					31

実施延日数	30	従事者延数	30	支出総額(円)		(内訳)
特記事項	連携している団体・機関名(済生会以外)					
	事業実施上の問題点等(未実施の場合は理由)					

事業名	外国人医療通訳支援事業	内容	診 療				(		)
概要	静岡県国際交流協会と連携し、日本語が通じない外国人を対象に、診察及び入院時に医療通訳の支援、調整を行う	支援対象	ホームレス	ＤＶ被害者	障害者 高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
		対象者延数					93			93

実施延日数	66	従事者延数	66	支出総額(円)	49,983	(内訳)
特記事項	連携している団体・機関名(済生会以外)	静岡県国際交流協会				
	事業実施上の問題点等(未実施の場合は理由)					

事業名	がん患者就労支援事業	内容	就労・社会参加支援				(		)
概要	ハローワークと連携し、がん患者の就労支援及び相談を行う	支援対象	ホームレス	ＤＶ被害者	障害者 高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
		対象者延数							15	15

実施延日数	6	従事者延数	11	支出総額(円)		(内訳)
特記事項	連携している団体・機関名(済生会以外)	静岡公共職業安定所				
	事業実施上の問題点等(未実施の場合は理由)					

事業名	無料健康相談事業	内容	健康診断・医療相談	(		)
概要	福祉事務所、民生委員、地域包括支援センター、社会福祉協議会等と連携し、生活困窮者、社会的弱者を含む地域住民を対象に健康診断及び相談支援を行う	支援対象	ホームレス	ＤＶ被害者	障害者 高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
		対象者延数								
実施延日数		従事者延数		支出総額(円)		(内訳)				
特記事項	連携している団体・機関名(済生会以外)									
	事業実施上の問題点等(未実施の場合は理由)									

施設名	静岡済生会総合病院、静岡医療福祉センター成人部、伊豆医療福祉センター

事業名	支部内各施設における無料健康相談会事業	内容	健康診断・医療相談	(		)
概要	施設利用者・家族を対象に無料の相談会を施設行事開催時に行う。施設利用者だけでなく幅広く参加を募る	支援対象	ホームレス	ＤＶ被害者	障害者 高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
		対象者延数			8			12	25	45
実施延日数	1	従事者延数	40	支出総額(円)	95,000	(内訳)	文具等55,566円、印刷代28,724円、郵送料7,954円等			
特記事項	連携している団体・機関名(済生会以外)									
	事業実施上の問題点等(未実施の場合は理由)	ワーク春日祭りがなかったため相談0件。H31年度は別の方法を検討し実施する。								

施設名	静岡済生会総合病院、特別養護老人ホーム小鹿苑、特別養護老人ホーム小鹿なでしこ苑

事業名	啓蒙・周知活動	内容	そ　の　他	(	研　　修	)
概要	施設利用者・家族・職員や地域住民、関係機関を対象になでしこプラン、無料低額診療事業等の済生会の活動について周知する。また、地域住民、関係機関等と連携し、講演会、情報交換会等を開催する	支援対象	ホームレス	ＤＶ被害者	障害者 高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
		対象者延数			266				579	845
実施延日数	16	従事者延数	55	支出総額(円)	29,354	(内訳)	認知症カフェにて広報（小鹿なでしこ苑　166名）			
特記事項	連携している団体・機関名(済生会以外)	民生委員協議会、障害者連絡協議会、従事者研修会、静岡市ケアマネットと静岡県MSW協会勉強会（病院413名）								
	事業実施上の問題点等(未実施の場合は理由)	小鹿苑（266名）								

施設名	特別養護老人ホーム小鹿苑

事業名	虐待高齢者緊急受入れ事業	内容	そ　の　他	(	そ　の　他	)
概要	家族の介護放棄による虐待高齢者等を緊急入所により受け入れる	支援対象	ホームレス	ＤＶ被害者	障害者 高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
		対象者延数								
実施延日数		従事者延数		支出総額(円)		(内訳)				
特記事項	連携している団体・機関名(済生会以外)	本年度該当者なし								
	事業実施上の問題点等(未実施の場合は理由)									

施設名	静岡市桜の園、静岡済生会総合病院

事業名	虐待障害者への緊急受入れ事業	内容	そ の 他	(	そ の 他	)				
概要	家族等による障害者への虐待の緊急保護において、緊急を要するケースを静岡済生会総合病院と連携し、受け入れていく	支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
		対象者延数			114					114
実施延日数	114	従事者延数	3,303	支出総額(円)		(内訳)				
特記事項	連携している団体・機関名(済生会以外)	静岡市								
	事業実施上の問題点等(未実施の場合は理由)									

施設名	静岡市桜の園

事業名	少年院在院者奉仕活動実習受入れ事業	内容	就労・社会参加支援	(		)				
概要	短期間で改善・更正する可能性が高いとされた、概ね18歳未満の少年が入院する「駿府学園」と連携し、在院者に対して更正に向けた教育活動を実施する場として、桜の園生活介護事業（通所）を実習先として提供する	支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
		対象者延数						31		31
実施延日数	16	従事者延数	7	支出総額(円)		(内訳)				
特記事項	連携している団体・機関名(済生会以外)	駿府学園								
	事業実施上の問題点等(未実施の場合は理由)									

施設名	静岡県川奈臨海学園

事業名	保護観察対象者の社会貢献活動受入れ事業	内容	就労・社会参加支援	(		)				
概要	静岡保護観察所、観察官と連携し、保護観察対象者等の社会貢献活動を受け入れる	支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
		対象者延数				14				14
実施延日数	2	従事者延数	2	支出総額(円)		(内訳)				
特記事項	連携している団体・機関名(済生会以外)	静岡保護観察所								
	事業実施上の問題点等(未実施の場合は理由)									

事業名	施設退所者の健康診断補助事業	内容	健康診断・医療相談	(		)				
概要	生活困窮のため健康診断を受けていない退園生に対するアフターケア及び健康状態のフォローを行う	支援対象	ホームレス	DV被害者	障害者高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
		対象者延数							1	1
実施延日数	1	従事者延数	2	支出総額(円)	23,000	(内訳)	一般健診コース健康診断費用			
特記事項	連携している団体・機関名(済生会以外)	伊東市民病院　ドック・健診センター								
	事業実施上の問題点等(未実施の場合は理由)									

施設名	静岡医療福祉センター児童部

事業名	障害児療育講座（健康医療相談）	内容	健康診断・医療相談				（		）
概要	施設利用者及び家族を対象に無料の相談会を療育セミナー開催時に行う。施設利用者だけでなく、幅広く参加を募る	支援対象	ホームレス	ＤＶ被害者	障害者 高齢者	刑余者等	外国人	母子児童	その他	計
		対象者延数						107		107

実施延日数	8	従事者延数	25	支出総額(円)		（内訳）	
特記事項	連携している団体・機関名(済生会以外)						
	事業実施上の問題点等(未実施の場合は理由)						

２　静岡県済生会監査室

組織全般においてコンプライアンスの徹底と説明責任の履行が強く求められる中で、社会福祉法人に対しても内部統制システムの整備と適切な運用が強く要請されており、これまで以上に業務チェック機能を果たす内部監査の重要性が高まっている。

平成 24 年度に発足した内部監査を所管する監査室は、引き続き関係法令、通知等に基づき施設の事務処理及び運営等が適正に行われているかどうかを明らかにし、必要な指導等を行うために下記の監査を実施した。

（１）社会福祉法人恩賜財団済生会支部静岡県済生会監査規程に則って次の監査を実施

①定期監査　時期及び内容を定めて計画的に実施。

②決算監査　毎会計年度終了後、決算役員会前に実施。

・定期監査・

施　設　名	監　査　日
静岡県川奈臨海学園	平成 30 年 7 月 13 日
なでしこ保育園	平成 31 年 1 月 8 日
静岡市桜の園	平成 31 年 1 月 25 日
小鹿苑	平成 31 年 1 月 28 日
小鹿なでしこ苑	平成 31 年 1 月 29 日
静岡医療福祉センター児童部	平成 31 年 1 月 30 日
静岡医療福祉センター成人部	平成 31 年 1 月 30 日

・決算監査・

施 設 名	監 査 日
監査法人および会計事務所による会計監査	平成 30 年 4 月 19 日、20 日 21 日、23 日
監事監査	平成 30 年 4 月 26 日

（２）行政機関等による指導監査及び実地指導等への立会い

・静岡県・静岡市による指導監査

施　設　名	監 査 日	実施機関
静岡県川奈臨海学園	平成 30 年 7 月 24 日	静岡県
なでしこ保育園	平成 31 年 1 月 10 日	静岡市
小鹿苑	平成 31 年 2 月 5 日	静岡市
小鹿なでしこ苑	平成 31 年 2 月 6 日	静岡市
静岡医療福祉センター児童部	平成 31 年 2 月 7 日	静岡市
静岡医療福祉センター成人部（書面監査）	平成 31 年 2 月 7 日	静岡市
静岡市桜の園（書面監査）	平成 31 年 2 月 8 日	静岡市

・静岡県・静岡市による実地指導

施 設 名	監 査 日	実施機関
静岡市心身障害者ケアセンター	平成 30 年 6 月 7 日	静岡市
静岡医療福祉センター成人部	平成 31 年 3 月 4 日	静岡市
静岡医療福祉センター児童部	平成 31 年 3 月 4 日	静岡市
静岡医療福祉センター児童部やさしい街に	平成 31 年 3 月 4 日	静岡市
ワーク春日	平成 31 年 3 月 5 日	静岡市
静岡市障害者生活支援センター城東	平成 31 年 3 月 5 日	静岡市

・静岡市保健所立ち入り検査

施 設 名	監 査 日	実施機関
静岡済生会総合病院	平成 30 年 11 月 16 日	静岡市保健所

・東海財務局介護サービスの経営状況実地調査

施 設 名	監 査 日	実施機関
小鹿苑	平成 30 年 8 月 13 日	会計検査院

・東海北陸厚生局及び静岡県の適時調査及び個別指導

施 設 名	監 査 日
静岡済生会総合病院	平成 30 年 7 月 3 日
伊豆医療福祉センター	平成 30 年 12 月 7 日

（３）支部監事による施設実地監査への立会

施　設　名	監　査　日
静岡県川奈臨海学園	平成 30 年 11 月 7 日
伊豆医療福祉センター	平成 30 年 11 月 7 日
静岡済生会総合病院	平成 31 年 3 月 7 日
静岡済生会看護専門学校	平成 31 年 3 月 7 日
静岡済生会訪問看護ステーションおしか	平成 31 年 3 月 7 日

（４）法人本部法定監査人法定監査

施　設　名	監 査 日	実施機関
静岡済生会総合病院	平成 30 年 12 月 4・6 日	本部監査指導室
静岡医療福祉センター児童部	平成 30 年 12 月 10・12 日	〃
静岡医療福祉センター成人部	平成 30 年 12 月 10・12 日	〃
伊豆医療福祉センター	平成 30 年 12 月 13・14 日	〃
小鹿苑	平成 30 年 12 月 18 日	〃
小鹿なでしこ苑	平成 30 年 12 月 19 日	〃
静岡済生会看護専門学校	平成 30 年 12 月 20 日	〃

３　静岡済生会総合病院（病院等事業）

基本理念

私達は暖かい思いやりの心で質の良い医療・福祉サービスを実践します。

平成 30 年度目標及び結果

目標１　安心・安全・高機能な急性期医療の提供

・業務の標準化と整理整頓等を進め、顧客サービスの向上に努める。
・入院患者を中心とした機能の集約を目指す。

結果　・東館連絡通路棟の完成
・院内環境デザイン(標示・ポスター・その他レイアウト)の充実

目標２　患者さん・連携医へのサービス向上

・プライバシーの配慮、外来施設整備の充実、接遇の質の向上を図る。
・地域の医療機関との連携を強化した紹介、逆紹介の推進
・無料低額診療、生活困窮者支援事業の推進
・広報活動の充実、強化に努める。

結果　・駐車場台数を増やした。外来トイレの改修
・訪問活動をし、新規紹介の獲得に努めた。
・がん患者、生活困窮者の就労支援に努めた。
・済生会フェア、市民公開講座を開催し、地域公開行事の充実に努めた。

目標３　優秀な人材の確保

必要な人材の確保と定着を目指し、職員教育の更なる充実を図る。

結果　後期研修医１名確保

目標４　働きやすい環境

・専門性を生かした業務を行える体制を整備。
・ワークライフバランスの充実に取り組み、働きやすい環境づくりを行う。
・メンタルヘルスの向上に努める。

結果　・ジョブコーチを１名増やし障害者雇用の充実に努めた。
・職員メンタル健診、ストレスチェック回収率増、高ストレス者率低下

目標５　安定した経営

安定した財源による建築計画の遂行のため、新入院数及び入院単価向上に努める。

結果　入院単価の増加に努めた。

静岡県中部地域の中核病院（昭和 23 年６月１日開設）として、入院診療を中心とする診療の充実に努めるとともに、救命救急センター、周産期センター、地域災害医療センター、健康管理センターのほか、地域福祉サービス事業等の運営、活動を積極的に進め、地域住民の疾病治療、予防、健康の増進を図った。

地域連携を一層推進するほか、医療の質及びサービスの向上を図り急性期病院として地域に更に貢献できる医療の提供を目指した。

なお、病院経営については、新入院数及び入院単価の向上、医療従事者の確保、支出削減に努め、安定した財源確保を図るとともに、職員の患者、連携医へのサービス向上等への意識付け並びに業務構造改革を推し進めた。

（１）病院運営事業

病床の適正配置と効率運用により、各診療科の安定した診療体制を確保した。救命救急、周産期、脳卒中、循環器等地域のニーズに対応するとともに、7 対 1 看護基準の維持により、安心・安全な看護体制の構築を図った。

区　　分	平成30年度計画・目標	平成30年度実績	平成29年度実績
許可病床数	521床	521床	521床
一日平均入院患者数	462名	451名	454名
一日平均外来患者数	979名	984名	1,003名

（２）救命救急センター・地域災害医療センター事業等

専門医を配置し、救急医療体制の充実強化を図った。また、災害派遣医療チーム(DMAT) の研修に積極的に参加し、大規模災害発生時の医療チーム緊急派遣に機動的に応じられるよう努めた。

区　　分	平成30年度計画・目標	平成30年度実績	平成29年度実績
救急患者数	19,000名	18,768名	19,218名
うち入院患者数	4,500名	4,310名	4,391名

（３）臨床研修事業

臨床研修病院として、研修医を受け入れ、各科指導医による臨床実務を通じて基本的知識、技術の習得などの臨床研修を行い医師としての資質向上に努めた。

区　　分	平成30年度計画・目標	平成30年度実績	平成29年度実績
受入研修医数	23名	22名	21名

（４）医師・看護師確保対策事業（院内保育所）

医師・看護師の離職防止と潜在医師・看護師の再就職を促進するために、平成27年度に開園したなでしこ保育園の充実運営に努めた。

区　　分	平成30年度計画・目標	平成30年度実績	平成29年度実績
事業所内保育事業(共同枠)	90名	84名	85名
〃　　(地域枠)	20名	17名	12名
病児保育事業	延べ100名	延べ6名	延べ64名
放課後児童健全育成事業	7名	7名	4名

（５）地域福祉サービス事業

社会福祉法人が運営する総合病院として、各医療福祉相談活動を通じ、地域住民の疾病治療、予防、健康の増進など社会福祉の向上に努めた。

区　　分	平成30年度計画・目標	平成30年度実績	平成29年度実績
医療相談	11,000件	8,200件	8,046件
心理相談	5,400件	5,019件	5,777件

（６）無料低額診療事業

生計困難者を対象に、無料または低額な料金での診療、無料の健康相談、保健教育等を行った。診療活動においては、生活保護患者以外の生計困難者について関係機関と連携の上、対象者への支援に努めた。

区　　分	平成30年度計画・目標	平成30年度実績	平成29年度実績
実施率	10.0%	8.1%	8.0%
対象者延べ数	40,000名	32,650名	32,762名

（７）生活困窮者支援事業

無料低額診療対象者のみならず、生活困窮者全般を対象に、無料健康相談や無料または低額な料金での検診等を行った。無料低額診療事業とあわせて、支部内の他施設も含め、地域の関係機関・団体や当事者とともに啓発活動、教育活動の他、地域での福祉的課題について積極的に取組を行った。

主な対象者:
刑余者（刑務所などを出所した者)、ＤＶ被害者、ホームレス、単身高齢者、就労困難者への支援など

区　　分	平成30年度計画・目標	平成30年度実績	平成29年度実績
対象者延べ数	1,500名	1,925名	1,755名

（８）健康管理センター事業

地域住民及び福祉施設入所者、一般事業所従業者の疾病予防、健康の保持増進に応えるため、人間ドック・各種健康診断を積極的に実施した。

区　　分	平成30年度計画・目標	平成30年度実績	平成29年度実績
人間ドック	2,000名	1,784名	1,908名
生活習慣病予防健診等	11,000名	11,967名	11,264名

（９）地域開放事業

将来の生き方や職業の選択について考えている、中学生、高校生を対象として医療、保健、福祉への理解を深めるため職場体験、ナーススクールなどを開催した。また、開院 70 周年イベントとして「健康講座＆トークショー」を開催し、日常生活で実践できる健康の秘訣をお伝えした。がん広報にも注力し、市民公開講座も開催した。

区　　分	平成 30 年度計画・目標	平成 30 年度実績	平成 29 年度実績
市民公開講座	3 回	2 回	4 回
職場体験(中学生参加人数)	50 名	33 名	50 名
小学生ナーススクール			
高校生ナーススクール	80 名	40 名	80 名
健康講座＆トークショー		3 回	1 回
落語会			1 回

※（　　）内は平成 29 年度実績

４　静岡医療福祉センター児童部（病院等事業）

基本理念

私たちはノーマライゼーション実現のため、あたたかな心をもって皆さんを応援いたします。

平成 30 年度目標及び結果

目標１　適切な支援の提供

・児童、成人それぞれの特性等に応じた支援を計画する
・短期入所による地域支援

結果　児童、成人それぞれの外出支援
短期入所年間利用延人数　332 名

目標２　安全な医療・生活の場の提供

・院内感染対策・医療安全対策の強化
・事故・事件防止に関する手順を徹底する

結果　マニュアルの改正
インシデント報告の活用

目標３　人材育成

・職員教育体制を構築する
・業務を標準化し、支援技術を向上させる

結果　各職場への研修の提案
業務手順書等の見直しの評価・改善

目標４　経営の安定化

・医師、直接処遇職員の確保に努める
・関係機関と連携し、入院（入所）児童、成人の確保に努める

結果　医師２名（常勤１、非常勤１）　看護師３名（常勤２、非常勤１）
支援員３名（非常勤）
一日平均入院（入所）児（者）数　41.2 名

目標５　労働環境の向上

・仕事と生活の調和に取り組み、働きがいのある職場を作る
・女性が働きやすい環境を作る

結果　年次有給休暇の取得促進、休暇制度等の周知

目標６　防災・防犯の強化

・地域の方々と交流を図る
・専門家と共に、BCP（事業継続計画）の策定を開始する

結果　福祉機器展でのイベント案内、BCP 策定委員会の開催（年間 7 回）

（１）医療型障害児入所施設事業（一種事業）（定員 60 名）
障害福祉サービス事業（療養介護）（二種事業）（定員 60 名）

入所児（者）及び通院児に対し、リハビリテーション・医療ケア・教育・ 施設内保育・生活指導等の総合療育及び療養上の支援を行った。従来の肢体不自由児療育に加え、発達障害児の診療を行うなど、利用者からの幅広いニーズに応えた。

入所児（者）数は、保育・教育機関の環境の充実、交通網の発達による在宅志向の高まりなどから減少傾向にある。外来患者数も前年より減少となった。

	平成 30 年度目標	平成 30 年度実績	平成 29 年度実績
一日平均入院(入所)児(者)数	48 名	41.2 名	41.5 名
一日平均外来患者数	190 名	179.1 名	189.5 名

疾病別人員　　（平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日）

疾病別	年間実人員	構成比
脳性麻痺	65 名	78.0%
進行性筋・神経疾患	4 名	6.0%
二分脊椎	5 名	6.0%
その他	9 名	10.0%
計	83 名	100.0%

月別入所者数

	初日在籍者数	延べ人数
30 年　4 月	39 名	1,262 名
5 月	39 名	1,232 名
6 月	42 名	1,266 名
7 月	39 名	1,291 名
8 月	45 名	1,464 名
9 月	38 名	1,194 名
10 月	40 名	1,199 名
11 月	39 名	1,222 名
12 月	39 名	1,222 名
31 年　1 月	39 名	1,224 名
2 月	41 名	1,184 名
3 月	38 名	1,279 名
合　計	478 名	15,039 名
月平均	39.8 名	1,253 名
一日平均		41.2 名

委（２）障害福祉サービス事業（短期入所）（二種事業）

障害者総合支援法による指定障害福祉サービス事業所として、市町から障害福祉サービス受給者証の交付を受けた利用者と契約し、家庭において、冠婚葬

祭、疾病、事故などの理由や、養育者のレスパイトとしての休養や旅行等の理由による短期入所を受けることにより、本人及びその家族の福祉の向上を支援した。

	平成30年度目標	平成30年度実績	平成29年度実績
年間利用延人数	140名	332名	107名
一日平均利用人数	0.4名	0.9名	0.29名

委（３）障害児相談支援事業・特定相談支援事業（二種事業）

委ア 静岡市障害者等相談支援事業

静岡市における相談支援事業指定施設として、在宅福祉を担当する職員を配置し、在宅の障害児（者）及び保護者に対して地域生活での具体的な相談、指導、サービスの調整を実施すると共に地域生活に根ざしたボランティアの育成を図った。

委イ 障害者等相談支援事業（虐待相談等含む）

・相談支援事業として総合的な在宅サービスの調整、援助等

	平成30年度目標	平成30年度実績	平成29年度実績
地域生活の支援・助言	2,500件	5,499件	3,326件

委ウ 障害児等療育支援事業

(ｱ) 在宅支援訪問療育等指導事業

・派遣職員　　医師、PT、OT、ST、心理士等

・活動先　　障害児保育実施園、重度障害児（者）訓練ホームの巡回、在宅訪問

	平成30年度目標	平成30年度実績	平成29年度実績
相談等延件数	73件	61件	95件

(ｲ) 在宅支援外来療育等指導事業

・個別相談、療育音楽、グループ保育活動

	平成30年度目標	平成30年度実績	平成29年度実績
相談指導延件数	280件	202件	299件

(ｳ) 施設支援一般指導事業

・障害児保育研修、発達フォローアップ教室、自主研修会等の指導等

	平成30年度目標	平成30年度実績	平成29年度実績
支援回数	13件	12件	12件

エ 指定特定相談支援事業・指定障害児相談支援事業
・利用者の相談支援及びサービス利用計画書の作成等

	平成 30 年度目標	平成 30 年度実績	平成 29 年度実績
利用計画書作成件数	140 件	143 件	135 件

委 **（４）日中一時支援事業（公益事業）**

在宅福祉を担当する相談支援員を中心に、医療施設機能を提供しながら在宅の障害児（者）の相談支援や施設短期入所の受け入れなど、地域に住む家族の生活への具体的な支援事業を実施した。

	平成 30 年度目標	平成 30 年度実績	平成 29 年度実績
年間利用延人数	20 件	46 件	24 件
一日平均利用人数	0.05 名	0.12 名	0.06 名

（５）その他の事業

研修室･会議室等運営事業

医療・社会福祉事業に携わる者の研修等の便宜に供するため、会議室等の管理運営事業を行った。

ア 会議室、ミーティング室利用状況

	平成30年度目標	平成 30 年度実績	平成29年度実績
会議等利用人数	6,000 名	5,708 名	5,870 名

イ 宿泊施設利用状況

	平成 30 年度目標	平成 30 年度実績	平成29年度実績
宿泊施設利用人数	30 名	47 名	20 名

※（　　）内は平成 29 年度実績

５　静岡医療福祉センター成人部（社会福祉事業）

基本理念
・健康で豊かに安心して生活できるよう支援します。

平成 30 年度目標及び結果

目標１　利用者の意向を反映した行事により、満足度の向上を目指す

利用者も行事の企画、立案の段階から参加し、自己実現・達成感を体感することにより、満足度の向上を目指す。

結果　富士山世界遺産センター、沼津港深海魚水族館、いちご狩り等 10 カ所の多彩な計画を作り、22 回に渡り外出支援を実施している。企画では利用者の意向が反映され、食事中心の計画が実施された。計画を作る楽しみと外出へ行っての楽しみと好評であった。

目標２　安定した経営を目指す

利用者の開拓に努め、入所者を確保する。（目標）年間　延べ　20,400 人

結果　入所者は、昨年度より、若干増加し延べ 19,600 人。病気の入院増加等により、目標に達成することが出来なかった。

（１）障害者支援施設（一種事業）（施設入所支援 60 名、生活介護 60 名）

障害者総合支援法による障害者支援施設として、日中は「生活介護」、夜間は「施設入所支援」の２事業を行った。

・定　　員　　施設入所支援　60 名（60 名）
・年間入所者数　　3 名（4 名）
・年間退所者数　　1 名（7 名）
・年間延在所者数　　19,600 名（19,472 名）
・一日平均在所者数　　53.7 名（53.3 名）

疾病別人員　　（平成 30 年 4 月 1 日～平成 31　年 3 月 31 日）

病　　名	年間実人員（名）	百分比（%）
脳　卒　中	32	56.1
その他の脳原性疾患	9	15.8
脳　外　傷	1	1.7
そ　の　他	15	26.3
計	57	99.9

月別生活介護・入所者数

		生活介護						施設入所	
		入所		通所		合計			
月	入所人数	利用人数	延べ利用数	利用人数	延べ利用数	利用人数	延べ利用数	利用人数	延べ利用数
4	54	54	1,123	5	49	59	1,172	54	1,601
5	54	54	1,219	5	55	59	1,274	54	1,643
6	54	54	1,120	5	49	59	1,169	54	1,600
7	54	53	1,149	5	48	58	1,197	53	1,620
8	55	54	1,205	5	55	59	1,260	54	1,621
9	56	56	1,106	5	45	61	1,657	56	1,657
10	56	56	1,265	5	56	61	1,321	56	1,699
11	56	56	1,227	5	52	61	1,279	56	1,673
12	56	56	1,154	5	50	61	1,204	56	1,701
1	55	55	1,187	5	43	60	1,230	55	1,607
2	56	55	1,061	5	44	60	1,105	55	1,485
3	56	55	1,147	5	46	60	1,193	55	1,693
計			13,963		592		15,061		19,600

・定　　員　　生活介護　　60 名
・開所日数　　259 日（260 日）
・年間延利用者数　　15,061 名（14,451）
・一日平均在所者数　　58.1 名（55.5）

（２）福祉サービス事業（短期入所）（二種事業）（空床）

指定障害福祉サービス事業所として短期入所事業を空きベッドを利用して実施した。

	平成 30 年度目標	平成 30 年度実績	平成 29 年度実績
年間利用延人数	200 名	279 名	299 名
一日平均利用人数	0.6 名	0.7 名	0.8 名

※（　　）内は平成 29 年度実績

６　静岡医療福祉センターライトホーム（二種事業）

基本理念
三療免許者に対し、必要な技術及び生活指導を行い、利用者の自立更生をはかる。

平成 30 年度目標及び結果

目標１　経営の安定化
・利用者（施術者）の確保
・利用客の確保　　目標 3,000 人
・人件費を含めた費用の見直し

結果　施術技術の研修会の実施
利用客　1,960 人
指導者の施術料納入割合の変更

目標２　施設の広報活動
・済生会フェアへの参加
・マッサージ無料奉仕の実施
・近隣町内会への広報活動の実施

結果　済生会フェアでのマッサージ無料体験　　利用者約 100 名
マッサージ無料奉仕　　利用者 35 名
ライトホームパンフレットの配布

目標３　施設の将来構想の検討
・課題の分析

結果　様々な選択肢の調査

（１）**利用者指導事業**（定員 20 名）
利用者の技術（鍼・灸・マッサージ）及び生活訓練動作の指導を行い、自立生活ができるよう養成に努めた。

	平成30年度目標	平成30年度実績	平成29年度実績
一日平均通所者数	10 名	2.8 名	3.2 名

疾病別人員　（平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日）

疾病分類	通所実人員	構成比
先天性視覚障害者	2 名	33.3%
中途視覚障害者	4 名	66.7%
計	6 名	100.0%

月別在所者数

年月	通所者延人数
30年　4月	57名
5月	58名
6月	57名
7月	66名
8月	62名
9月	53名
10月	57名
11月	60名
12月	53名
1月	48名
2月	56名
3月	53名
合計	680名
月平均	56.7名
一日平均	2.8名

（年間通所日数　　240日）

（２）その他

＊静岡市主催の「心のバリアフリーイベント」への参加

・体験ブース・就労訓練活動体験として、5分間無料マッサージの実施

・ライトホームのパンフレット等の配布

参加者　：ライトホーム指導員1名、研修生3名、ボランティア2名

利用者数：午前29名、午後73名　計102名

※（　　）内は平成 29 年度実績

7　静岡市発達障害者支援センター（公益事業）

基本理念

直接支援である相談、発達、就労支援及び情報提供や啓発研修のより一層の充実を図り、医療、保健、福祉、教育、雇用、親の会など関係機関や団体との連携により専門性を持った支援職員人材育成、ペアレントメンター、地域サポーター養成研修等の支援を行っていく。

平成 30 年度目標及び結果

目標１　静岡市発達障害者支援センター運営事業について、相談支援、発達支援、就労支援を継続し適切な助言や支援の提案を行う。

結果　相談支援については、ペアレントメンター事業等の業務が拡大し、電話相談における受付回数が減少したが、その分発達支援や就労支援（来所相談や訪問支援）を充実させることができた。

目標２　発達障害者家族支援・支援体制サポート強化事業について、支援体制サポート強化事業において、巡回相談を実施する。ペアレントメンター・地域サポーター養成講座を実施し、あわせてペアレントメンターの活用を行う。

結果　ペアレントメンター・地域サポーター養成研修では、例年の養成講座 6 回に加え、アドバンス研修 4 回を合わせて実施した。本事業は全国的に当センターのように養成講座を修了したペアレントメンターが実際に活動をしている地域はまれで、平成 30 年度には東京での報告会に報告書として招かれた。

目標３　発達障害について、主催研修会、専門研修会、講師派遣を実施し、普及と啓発活動を行う。

結果　当センターの支援の柱と考えている事業である。平成 30 年度は、例年の一般研修、専門研修に加えて、かかりつけ医等発達障害対応力向上研修会を医師向けに 3 回実施することができた。

発達障害者支援法に基づく発達障害者に対する相談支援、発達支援、就労支援、関係機関に対する普及啓発及び研修等を行い、また、静岡市在住の自閉症、アスペルガー症候群、広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害等の発達障害がある本人、家族、関係者及び関係機関からの相談支援を行った。

㊥委（１）発達障害者支援センター事業

ア　発達障害児者及び家族に対する相談支援

	平成 30 年度目標	平成 30 年度実績	平成 29 年度実績
年間延相談件数	1,000 件	663 件	730 件

イ　発達障害児者及び家族に対する発達支援

	平成 30 年度目標	平成 30 年度実績	平成 29 年度実績
年間延相談件数	1,600 件	2,503 件	2,740 件

ウ　発達障害児者に対する就労支援

	平成 30 年度目標	平成 30 年度実績	平成 29 年度実績
年間延相談件数	250 件	394 件	305 件

エ　関係施設及び関係機関に対する普及啓発及び研修

	平成 30 年度目標	平成 30 年度実績	平成 29 年度実績
年間開催回数（参加延人数）	70 回（4,000 名）	171 回（5,447 名）	151 回（3,641 名）

㊖（２）家族支援・支援体制サポート強化事業

ア　支援体制サポート強化事業による巡回

	平成 30 年度目標	平成 30 年度実績	平成 29 年度実績
年間延ケース数	450 件	602 件	647 件
年間延訪問数	126 回	139 回	118 回

イ　ペアレントメンター・地域サポーターの養成

	平成 30 年度目標	平成 30 年度実績	平成 29 年度実績
年間開催回数（参加延べ人数）	6 回（300 名）	10 回（476 名）	6 回（365 名）

ウ　ペアレントメンターの活用

	平成 30 年度目標	平成 30 年度実績	平成 29 年度実績
年間実施回数 （ペアレントメンター延べ人数）	45 回（130 名）	127 回（197 名）	102 回（210 名）

※（　　）内は平成 29 年度実績

８　伊豆医療福祉センター（病院等事業）

基本理念

私たちは、障がいを持つ方々の生活の充実・満足を目指して、チームを組んで医療と療育の総合的支援に取り組みます。

平成 30 年度目標及び結果

目標

１ 地域ニーズの的確な把握と、適切な病床利用

目標：入所者数 35 名

２ 入所利用者の満足度の向上

目標：病棟での様々な行事の充実

３ 在宅重症心身障害児者の福祉向上

目標：利用者数　生活介護７名/日　児童発達支援６名/日　短期入所等８名/日

４ 機能充実に伴う人材の確保・職員の質の向上

結果

- 平成 30 年度は、２名の退所と２名の入所があり、平成 30 年度末の入所児（者）数は児童が 12 名、成人が 22 名の計 34 名となった。
- 外来患者はいわゆる発達障害の児童を中心に増加しており、新患の予約が３か月先でないといれられないような状況となっている。
- 在宅支援福祉関連サービスでは、生活介護利用者が前年の 5.8 名/日から 5.7 名/日に減少し、児童発達支援利用者も、障害の重度化に伴う病欠等があったため、5.3 名/日から 3.5 名/日に減少した。
- ひとつひとつの医療・介護行為は、安全を心がけ、丁寧に実施した。安全対策委員会・感染防止委員会等を開催し、防ぐことのできる事故を起こさないよう努めた。
- 重度・重症児（者）医療・療育講習会他へ職員を参加させ、職員の医療・療育技術の向上を図った。

（１）医療型障害児入所施設（一種事業）・障害福祉サービス事業（療養介護）（二種事業）（定員計 43 名）

当センターは、社会福祉施設であるとともに、医療法に基づく病院でもあることから、外来診療として脳神経外科、発達行動小児科、小児神経科、整形外科、リハビリテーション科、障害児(者)歯科の専門診療を行っており、社会福祉施設としての機能と併せ、静岡県東部の障害児(者)の総合的な療育支援を担っている。

	平成 30 年度計画・目標	平成 30 年度実績	平成 29 年度実績
1 日平均在所児（者）数	35 名	32.8 名	33.1 名
1 日平均外来患者数	90 名	90.7 名	91.2 名

（ 入　　所 ）　　（ 外　　来 ）

・定　　員　43名（ 43名）　・年間延べ患者数　25,407名（26,075名）
・在所児(者)数　34名（ 34名）　・年間診療日数　280日（ 286日）
・年間延べ在所児童(者)数 11,966名（12,067名）　・一日平均患者数　90・7名（ 88.2名）
・一日平均在所児童(者)数　32.8名（ 33.1名）

（２）障害児通所支援事業（児童発達支援）（二種事業）

	平成30年度計画・目標	平成30年度実績	平成29年度実績
1日平均利用者数	8名	3.5名	5.3名

・定　　員　7名（ 7名）
・登録児童数　9名（ 13.5名）
・年間延通所児数　783名（ 1,181名）
・一日平均通所児数　3.5名（ 5.3名）
・年間通園日数　222日（ 223日）

（３）障害福祉サービス事業（生活介護）（二種事業）

	平成30年度計画・目標	平成30年度実績	平成29年度実績
1日平均利用者数	6名	5.7名	5.8名

・定　　員　5名（ 5名）
・登録者数　20名（ 18.0名）
・延べ通所者数　1,379名（1,397名）
・一日平均通所者数　5.7名（ 5.8名）
・年間通園日数　239日（ 240日）

㊖（４）障害福祉サービス事業（短期入所）（二種事業）

㊖（５）日中一時支援事業（地域生活支援）（公益事業）

	平成30年度計画・目標	平成30年度実績	平成29年度実績
1日平均利用児(者)数	8名	4.5名	4.3名

・年間延べ利用者数　1,645名（1,574名）
・一日平均利用児（者）数　4.5名（ 4.3名）
・年間実施日数　365日（ 365日）

短期入所・日中一時支援の合計

㊖（６）障害児相談支援事業・特定相談支援事業・（二種事業）

ア　特定相談支援事業・障害児相談支援事業

相談支援専門員１名を配置し、障害児（者）が福祉サービスを利用する際に義務付けられている利用計画作成のための相談に対応した。

	平成30年度計画・目標	平成30年度実績	平成29年度実績
計画相談等(モニタリング含む)	200回	211回	249回

イ　静岡県障害児（者）地域療育支援センター事業

登録された障害児（者）を対象とした在宅訪問・外来・施設支援等に対し、当センターの職員である医師・PT・OT・ST・心理士・管理栄養士・看護師・保育士等を派遣し、在宅障害児（者）の療育指導を実施した。

	平成30年度計画・目標	平成30年度実績	平成29年度実績
在宅支援訪問療育等指導事業	150回	242回	111回
在宅支援外来療育等指導事業	250回	198回	277回
施設支援一般指導事業	50回	32回	30回

ウ　静岡県発達障害者支援センター機能強化事業

自閉症、アスペルガー症候群、注意欠陥多動性障害、学習障害等があるいわゆる発達障害児（者）に対し、それぞれのライフステージに応じた生活を支援するため、地域での医療や福祉サービス等の情報提供を行うとともに、学校・保護者を含む関係機関との調整会議に参加した。

県発達障害者支援センターが主催する研修会へ参加した。

賀茂地区と伊東熱海地区の発達障害に関する巡回相談を５回実施した。

エ　一般相談支援等

身近な地域での各種福祉サービスの利用などに関する、電話等を含めた様々な相談に応じるとともに、障害児（者）が充実して暮らせる地域づくりを目指し、行政機関や、自立支援協議会との連携を図った。

	平成30年度計画・目標	平成30年度実績	平成29年度実績
一般相談等	500回	645回	420回
自立支援協議会等参加		108回	74回

※（　　）内は平成 29 年度実績

９　静岡県川奈臨海学園（社会福祉事業）

基本理念

子どもの最善の利益のため、子どもたち一人ひとりが尊重され、心身とも健やかに育成され、将来健全な社会の一員として自立できるように支援を行う。

平成 30 年度目標及び結果

＜児童養護施設＞

目標１　家庭的施設整備に養護の推進計画に合わせた施設整備への取り組み

（１）施設の老朽化に伴い静岡県と連携を図り改築計画を進めるため関係機関との調整を図る。

（２）改正児童福祉法の理念に基づく「都道府県推進計画の見直し」にそって、具体的な計画掲示と家庭的養護のための運営方針をまとめる。

結果 平成 30 年度静岡済生会第５回支部理事会報告事項として「静岡県川奈臨海学園施設整備計画」を報告した。今後の予定について課題の整理をしつつ継続して進める。「都道府県推進計画の見直し」の策定は、平成 31 年度へ継続する。

目標２　基本理念に基づき、児童の生活支援及び自立へ向けての取り組み

（１）自立支援計画に基づき、児童一人ひとりに生活支援を行う。

（２）高学齢児童の進学・自立に向けた支援を実施する。

（３）家庭復帰へ向けて家族との連携及び協働について家族再統合のできる家庭の調整を行う。

結果 児童一人一人にしっかり向き合い、課題を検討し子どもたちの特性を理解し日々の支援にあたった。年間退所者８名中・家庭復帰６名・他施設措置変更２名であった。児童相談所との連携のもとアフターケアも継続している。

目標３　里親支援への取り組み

（１）里親の研修、実習を積極的に受け入れる。

（２）里親の開拓や資質向上のサポートを行う。

結果 里親事業推進と里親開拓をし、里親研修については基礎研修及び施設実習を３組（３名）・基礎研修のみを２組（４名）・施設実習のみ１組（２名）を積極的に受け入れた。

＜病児保育＞

目標４　病児保育事業の充実を図る

（１）伊東市からの委託を受け指定医療機関との連携により病児病後児に対して疾病からの回復を支援する。

（２）関係機関との連携を図りより多くの市民へ周知する。

結果 年間の利用数 378 名であった。常勤の看護師を配置し区分違いの病児の受け入れ、伊東市内保育園への情報提供や SNS の利用により情報発信の場を広げた。

（１）児童養護施設（一種事業）

ア　児童養護施設運営事業

定員 65 名で虐待を受けた児童が増加する中、３才児から大学１年生まで関係機関との連携を図りながら、個々の自立支援計画に基づき支援を行った。今年度は高校卒業学年の該当者はいなかった。中学卒業児童の５名のうち普通科高校へ２

名・商業科高校へ１名・特別支援学校へ２名進学した。一日平均 51.7 名の子どもたちに対し、職員全体が関わりながらより良い支援を行うよう努めた。

イ　小規模グループケア

小規模グループケア棟定員６名で、専任職員と本体施設職員がシフトを組み、児童との関係を密接にし、ケアの内容を深めた。

・定員　65 名　(70 名)
・年間入所児童数　12 名　(5 名)
・年間退所児童数　8 名　(13 名)
・年間延在所児童数　18,870 名　(19,844 名)

	平成３０年度計画・目標	平成 30 年度実績	平成 29 年度実績
一日平均在所児童数	59 名	51.7 名	54.3 名
小規模グループケア	６名	６名	5.5 名

入所理由別人員（主訴）　（平成 30 年４月１日～平成 31 年３月 31 日）

入園理由	年間取扱実人員（名）	構成比（%）
疾　患	0	0
養　護	12	21.4
虐　待	44	78.6
計	56	100

月別在所児童数

年　月		初日在籍者数（名）	延べ人数（名）
30 年	4 月	47	1,410
	5 月	47	1,457
	6 月	47	1,441
	7 月	50	1,550
	8 月	51	1,587
	9 月	53	1,590
	10 月	53	1,643
	11 月	54	1,642
	12 月	55	1,705
30 年	1 月	54	1,674
	2 月	54	1,512
	3 月	55	1,659
計		620	18,870
月　平　均		51.7	1572.5
一日平均			51.7

ウ　その他　乳幼児受け入れ

１歳と２歳の未就園児の入所はなかった。３歳以上の幼児は伊東市立吉田幼稚園や伊東市教育委員会や近隣地域と連携を取り、理解と協力を得ながら受け入れを行った。（月平均 7.1 名）

㊥（２）病児保育事業（二種事業）

伊東市との病児保育事業業務委託を受け、基本理念を「子どもたちの健全な成長と発達を保障しつつ疾病からの回復を援助する」とし、指定医療機関と連携して病児の看護保育を行い伊東市内の子育て世帯の支援を行った。

平成 30 年度の利用

	平成 30 年度計画・目標	平成 30 年度実績	平成 29 年度実績
年間利用延べ児童数	400 名	378 名	353 名
月平均児童数	34 名	31.5 名	29.4 名
新規登録児童数	50 名	43 名	41 名
登録児童数	326 名	326 名	316 名

（３）その他の事業　（なでしこプラン）

ア　保護観察対象等が行う社会貢献活動の受け入れ

保護観察所と地区保護司会と連携し、保護観察対象者の社会貢献活動の場を当学園が提供し継続的に受け入れと支援を行った。

	平成 30 年度計画・目標	平成 30 年度実績	平成 29 年度実績
年間受け入れ回数	2 回	2 回	3 回
年間受け入れ延べ人数	16 名	14 名	14 名

イ　退所児童の健康診断補助事業

「施設退所後、生活困窮のため健康診断を受けていない退園生に対する健康状態フォロー」を第 2 期中期事業計画にて新たに事業として加え、１名の退園生に対して、伊東市民病院で健康診断を受けてもらい健康状態フォローを行った。

	平成 30 年度計画・目標	平成 30 年実績	平成 29 年実績
年間受け入れ延べ人数	2 名	1 名	

※（　　）内は平成 29 度実績

10　静岡市心身障害児福祉センター「いこいの家」（社会福祉事業）

基本理念

児童福祉法に基づく児童発達支援センターとして、発達の心配な乳幼児の子育て支援・家庭支援の充実を図り、こどもたちの健やかな育ちと安心・安全な生活の実現に努める。

平成 30 年度目標及び結果

障がい幼児の通園事業を核として発達の気になる就園前幼児の親子教室や療育相談、認定こども園・幼稚園に就園している幼児の保育所等訪問支援、障がい児の相談支援事業の一層の充実を図る。

目標１　平成 28 年度より指定管理の更新を受け、これからもこども・保護者の気持ちに寄り添い集団生活を通して遊びとコミュニケーションの力を育て、生活習慣の自立と社会適応を支援していく。

結果　・個々の発達段階や家庭の状況等も踏まえた個別支援計画を立て、保護者と共により良い発達支援を行なった。

・進路支援は揺れ動く保護者の気持ちを理解しきれず苦情となってしまったが、最終的にはそれぞれ適した進路を選択できた。（就学 22 名、静岡市立こども園１名、私立幼稚園２名、発達支援センター１名）

目標２　重心児・医療的ケア児・自閉症児等様々な障がいに対応できるよう職員の資質の向上に努めていく。

結果　・主治医より医療的ケア研修を受け保育士も医療的ケアを実践できるようにした。

・業務マニュアルの研修を園内で実施し再確認した。

・ケース検討会や研修報告会を実施し職員全員に個々のケースを把握できるようにした。

目標３　親子教室では、楽しい遊びを経験しながら母子関係を深め、前向きに子育てできるように支援し進路相談も受けていく。

結果　・静岡市が実施したあそびの広場、パステル広場からの紹介が増え、２歳児対象のミニひまわりグループの利用が増え対応に苦慮した。

目標４　地域に開かれた施設として実習・研修・ボランティア等の受け入れを拡充し、福祉施設への就職希望にもつなげていく。

結果　・実習、研修、ボランティアは希望が出た際に断ることなく受け入れた。今年度も実習生の中からいこいの家採用者が出た。

㊟（１）障害児通所支援事業（二種事業）

ア　児童発達支援通所支援

就学前の心身障害児に対して集団参加を通して、生活と遊びを充実させ、健やかな成長、発達をしていくように支援し、併せて就園・就学に向けての基礎作りをした。

	H30 目標	H30 実績	H29 実績
・入園児数（定員）		50 名	(50 名)
・年間新入所児童数		26 名	(21 名)
・年間退所児童数		26 名	(20 名)
・年間延在所（通園）児童数		9,916 名	(9,591 名)
・一日平均在所（通園）児童数	43 名	41.3 名	(40.0 名)

疾病別人員　（平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日）

病　　名	年間取扱実人員（名）	百分比（%）
脳　性　麻　痺	5	10.0
自閉症(自閉傾向を含む)	18	36.0
精神遅滞(発達遅滞を含む)	6	12.0
染色体異常(ダウン症他)	10	20.0
その他	11	22.0
計	50	100.0

月別在所児童数（年間通所日数 240 日）

年　月	初日在籍者数	延　人　数
30 年　4 月	50	725
5 月	50	914
6 月	50	896
7 月	50	885
8 月	50	839
9 月	50	704
10 月	50	954
11 月	50	871
12 月	50	737
31 年　1 月	50	777
2 月	50	846
3 月	50	768
合　計	600	9,916
月平均	50	826.3
一日平均		41.3

イ　保育所等訪問支援

	平成 30 年度計画・目標	平成 30 年度実績	平成 29 年度実績
訪問相談	12 件	78 件	74 件
来所相談	／件	55 件	69 件
電話相談	／件	356 件	317 件

指（２）障害児相談支援事業・特定相談支援事業(二種事業)

	平成 30 年度計画・目標	平成 30 年度実績	平成 29 年度実績
障害児支援利用計画	180 件	81 件	82 件
特定相談計画	／件	0 件	0 件
モニタリング	／件	69 件	67 件
一般相談	／件	215 件	199 件

電話相談	／件	1,167 件	1,262 件
訪問支援	／件	215 件	187 件
その他	／件	142 件	179 件

（３）その他　地域療育支援事業

ア　親子教室　　年間　204 回（月平均 17 回）登録者数 136 名（126 名）
　　参加児延数　目標 1,600 名　実績 1,618 名　（1,639 名）

イ　療育相談の実施（随時）目標 60 名 44 名　（71 名）
　　一般相談（電話及び来所）323 名（377 名）

ウ　地域交流等
　　地域に開かれた通園施設として、地元をはじめ広く市民やボランティア、学生、主婦の方々との交流を実施した。

・いこいの家通信発行　12 回（12 回）378 部（380 部）
・夏祭り参加者　414 名（562 名）
・城東保健福祉エリア地域交流まつり参加者　349 名（417 名）
・実 習 生 受 入　25 名（31 名）　延 274 名（401 名）
・体験研修受入　69 名（94 名）　延 117 名（143 名）
・ボランティア受入　個人 22 名（34 名）　団体　63 名（83 名）　延 432 名（569 名）

※（　　）内は平成 29 年度実績

11　小　鹿　苑（社会福祉事業）

基本理念

私たちは、ご利用者一人ひとりの声に耳を傾け、真に、ご利用者の立場に立った支援を実践します。

平成 30 年度目標及び結果

目標１　ご利用者一人ひとりを大切にするサービスの提供に努める。

・施設や住み慣れた地域で安心して生活できるよう支援する。

結果　ご利用者とのコミュニケーションを図り、施設や在宅でご利用者が望む生活ができるよう支援した。しかし、施設においては一番の希望である個別の「外出支援」については職員数が充足できなかったため、十分な支援を行えなかった。在宅においては、事業間で連携を取り、在宅生活が継続できるよう支援を実施している。

目標２　地域の福祉活動を支え続ける。

・「小鹿苑カフェ」を気軽に立ち寄れる場所として確立する。

・地域の福祉活動に参加する。

結果　２年目に入った「小鹿苑カフェ」は、地域住民、民生委員など毎回 20 名以上の参加があり、一定の周知ができ、居場所として定着してきた。

地域の福祉活動には個としての参加が中心となり、小鹿苑全体として取り組めなかった。

目標３　稼働率の向上及び運営の効率化を図る。

・事業計画の目標値の達成に向けて職員一人ひとりが努力する。

・業務の見直しを行い改善する。

結果　各事業の経営状況について、月次の運営会議において事業間で相互に協力できるもの等を検討し事業目標達成に向けて努力した。特養、デイサービスは改善されたが、短期入所はインフルエンザ流行による受け入れ中止、訪問介護は職員の減員等により稼働率の向上に苦慮した。

各事業において積極的に業務改善、効率化を進めている。

目標４　後継者の育成や新たな人材確保に努める。

・研修の充実を図りキャリアパスを確立する。

・実習生へのきめの細かい指導を行い雇用に繋げる。

・就職相談会等に参加し積極的な採用活動を行う。

結果　介護職員の研修計画を策定し、職員数が充足しない中、一人 1 回以上外部研修に参加するという目標を概ね達成することができた。また、苑内研修においては、法人内の人的資源を活用し、充実した研修を行い、多くの職員が参加した。

実習生へのきめ細かい指導を徹底した。

就職相談会等にも積極的に参加し採用に繋げた。

（１）特別養護老人ホーム運営事業（一種事業）　80 名定員（80 名）

経営の健全化のため空床率の削減に努め、１日平均在所者数は前年より約２名増加し、目標を達成できた。また、要介護認定の更新を積極的に行ったため平均介護

度は0.3増加した。

昨年に引き続き、中庭を活用し、暖かな季節には青空のもとランチを楽しみ、また、短時間ながらお花見やイルミネーションを楽しむなどの外出も行った。

ポジショニング（褥そう等の予防のための姿勢矯正）を継続して実施し、講師の指導のもと介護度の高い方のQOLの向上に取り組んだ。

新規の入所申込が85件あり、入所希望者は平成30年度末現在で83名（54名）である。

・年間新入所者数　20名（33名）
・年間退所者数　20名（31名）
・入所者平均年齢　86.0歳（85.8歳）
・平均介護度　4.0　（3.7）

	平成30年度計画・目標	平成30年度実績	平成29年度実績
一日平均延利用人数	79名	79.1名	77.2名

疾病別人員　（平成30年4月1日～平成31年3月31日現在）

病　名	年間実人員（名）	構成比（%）
脳卒中等	21	21.0
認知症等	54	54.0
リウマチ、脊椎症等	4	4.0
その他	21	21.0
計	100	100.0

（２）老人短期入所事業（二種事業）　定員20名（20名）

施設入所等により38名利用者が減少し、新規利用者は34名であった。

例年どおり、週末・連休期間の希望者は多数であった。職員数の確保ができなかったため、1日の利用者数を制限せざるを得なかった。またインフルエンザにより受け入れの人数を制限した期間があり稼働率が伸びなかった。

一人年間利用日数は、平均101日(108日)であった。

・年間延べ利用者数　3,238名（4,119名）
・年間実利用者数　333名（458名）
・利用者平均年齢　83.2歳（82.3歳）
・平均介護度　要支援1.0　要介護2.9（要支援1.0　要介護2.5）

	平成30年度計画・目標	平成30年度実績	平成29年度実績
一日平均延利用人数	14名	8.9名	11.3名

（３）老人デイサービスセンター（通所介護事業）（二種事業）定員一日35名（35名）

通常規模型（月次301名以上750名以下）でサービスを行った。

利用終了者27名に対し新規利用者は19名と伸びなかったが、一人当たりの利用回数の増加により、通所相当と合わせて1日平均利用者人数はわずかに29年度を上回った。

・年間延べ利用者数　5,647名（6,012名）

・年間実利用者数　626 名（693 名）
・年間実施日数　306 日（307 日）
・利用者平均年齢　85.5 歳（77.0 歳）
・平均介護度　要支援 1.6　要介護 2.0（要支援 1.4、要介護 1.8）

	平成 30 年度計画・目標	平成 30 年度実績	平成 29 年度実績
一日平均延利用人数	23 名	18.5 名	19.6 名

（４）老人居宅介護等事業（訪問介護事業）（二種事業）

10 名（11 名）のホームヘルパーが稼動した。施設入所等により 19 名の利用者が減少し、新規利用者は 15 名であった。

ヘルパーの人材確保が困難であり、需要に対応した新規利用者の受入に苦慮した。

・年間延べ利用者数　3,017 名（5,479 名）
・年間実利用者数　348 名（740 名）
・年間活動日数　308 日（310 日）
・利用者平均年齢　80.0 歳（81.2 歳）
・平均介護度　要介護 1.7（要支援 1.6　要介護 1.6）

	平成 30 年度計画・目標	平成 30 年度実績	平成 29 年度実績
一日平均延利用人数	20 名	9.8 名	17.7 名

委（５）地域包括支援センター運営事業（公益事業）

静岡市からの受託事業であり、主に地域支援事業と指定介護予防事業を行った。西豊田、東豊田、東源台小学校区を担当し、高齢者の方からの総合相談、介護保険要支援認定者等の予防プラン作成を行い、関係機関や民生委員との連携により問題解決に努めた。支援困難ケースについて、その取り組みの検討や、地域課題の抽出を目的とした地域ケア会議を実施した。

・年間延べ相談者数　2,126 名（2,201 名）
・介護予防支援（直営・委託）　2,898 件（4,189 件）
・介護予防ｹｱﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ（直営・委託）　1,649 件
・年間活動日数　312 日（308 日）

	平成 30 年度計画・目標	平成 30 年度実績	平成 29 年度実績
月平均数	350 件	378.9 件	349 件

（６）居宅介護支援事業（公益事業）

４名(4 名)のケアマネジャーが稼動し、ケアプランを作成した。
前年度より継続して地域包括支援センターから予防ケアプランの受託作成を行った。要介護認定調査は、年間 136 件（152 件）であった。

・年間ケアプラン給付管理者延べ数　1,719 件（1,520 件）
・ケアプラン新規作成者　58 名（74 名）
・平均介護度　要支援 1.5　要介護 2.0（要支援 1.4　要介護 2.4）

	平成30年度計画・目標	平成30年度実績	平成29年度実績
一日平均利用人数	137名	143.2名	126.7名

（７）介護予防・日常生活支援総合事業（公益事業）

要支援者・事業対象者で日常生活に支障がある方に対して、日帰りで各種サービスを提供する通所介護相当サービス及びホームヘルパーを派遣し日常生活を支援する訪問介護相当サービスを行った。

・年間通所相当延べ利用者数　501名
・年間通所相当実利用者数　93名
・年間通所相当実施日数　306日

（通所介護相当サービス）

	平成30年度計画・目標	平成30年度実績	平成29年度実績
月平均実利用者数	10名	7.8名	-名

・年間訪問相当延べ利用者数　2,009名
・年間訪問相当実利用者数　347名
・年間訪問相当実施日数　308日

（訪問介護相当サービス）

	平成30年度計画・目標	平成30年度実績	平成29年度実績
月平均実利用者数	30名	28.9名	-名

月別在所（利用）者数　（名）

区分	特養		短期		ﾃﾞｲｻｰﾋﾞｽ		通所相当		ﾎｰﾑﾍﾙﾊﾟｰ		訪問相当		地域包括支援ｾﾝﾀｰ	
月	人数	延人数	人数	延人数	人数	延人数	人数	延人数	人数	延人数	人数	延人数	人数	延人数
4月	82	2,383	30	257	56	470	7	34	34	297	29	150	91	155
5月	80	2,454	30	320	55	527	8	48	29	278	30	180	90	176
6月	83	2,423	29	344	56	489	9	57	29	248	29	163	104	177
7月	83	2,454	27	334	55	503	8	40	29	273	29	171	95	192
8月	81	2,454	29	330	54	485	8	46	29	268	29	182	94	202
9月	80	2,379	29	273	56	455	8	37	30	235	29	158	76	154
10月	82	2,457	31	275	54	512	7	37	29	260	28	183	103	186
11月	82	2,393	29	255	53	496	7	40	28	245	28	173	94	153
12月	80	2,472	30	270	49	442	6	33	28	234	28	155	95	158
1月	84	2,480	25	179	49	430	7	33	28	232	30	166	89	188
2月	81	2,137	20	186	46	402	8	42	28	215	30	166	98	181
3月	80	2,385	24	215	43	436	10	54	27	232	28	162	95	204
合計	978	28,871	333	3,238	626	5,647	93	501	348	3,017	347	2,009	1,124	2,126
月平均	81.5	2,405.9	27.8	269.8	52.2	407.6	7.8	41.8	29.0	251.4	28.9	167.4	93.7	177.2
1日平均	79.1		8.9		18.5		1.6		9.8		6.5		1.6	
					20.0				16.3					

※（　　）内は平成 29 年度実績

12　小鹿なでしこ苑（社会福祉事業）

基本理念
あなたがあなたらしく　私が私らしく
～ユニット環境を生かして、個性豊かな生活を支援します～

平成 30 年度目標及び結果

目標１　個人に適したケアを徹底し、その人らしい生活の実現に努めます。
結果　個別ケアの意識は浸透し徹底されてきている。外出や趣味の支援などのその人らしい生活の実現については十分には行うことはできなかった。

目標２　自己啓発に努め、専門職としてサービスを提供します。
結果　苑内研修の充実を図り、小鹿苑と合同で研究発表会を行った。

目標３　ホウレンソウの徹底により情報を共有化し、チームワークを強化します。
結果　情報の共有化と記録の簡略化を目指し、ICT 委員会を立ち上げ、介護記録にタブレット端末を３月に導入した。

目標４　より一層のコスト削減に努めます。
結果　ユニットごとに消耗品の消費量を比較するなどコスト削減に努めた。電気代のピークカットを施設全体で取り組んだ。

（１）特別養護老人ホーム運営事業（一種事業）　　定員 96 名　(96 名)

入退所による空床は昨年度と同程度であったが、入院者数が多く、利用実績は昨年度を下回った。家族・病院との連携、相談支援体制の強化が必要である。

・年間新入所者数	２５名	(27 名)
・年間退所者数	２６名	(27 名)
・一日平均在籍者数	実績９５．２名	(95.3 名)
・一日平均入所者数	実績９１．３名	(92.3 名)
・入所者平均年齢	８３．８歳	(83.9 歳)
・平均介護度	3.95	(4.02)

	平成 30 年度計画・目標	平成 30 年度実績	平成 29 年度実績
一日平均入所者数	94 名	91.3 名	92.3 名

（２）短期入所事業（二種事業）　　定員 13 名

介護職員の採用難により、稼働率を下げ対応している。実利用者数は年間５名で、そのうち２名が長期入所になり、現在３名の方が定期的に利用している。

・年間延べ利用者数　645 名　(744 名)
・一日平均利用者数　実績１.８名　(2.0 名)
・利用者平均年齢　８２.０歳　(81.7 歳)
・平均介護度　2.84　(2.70)

	平成30年度計画・目標	平成 30 年度実績	平成 29 年度実績
一日平均利用者数	４名	1.8 名	2.0 名

月別利用者数

（名）

	特　養			短　期	
	人数※	入所者延人数	在籍者延人数	人数	利用者延人数
30 年 4 月	95	2,760	2,860	3	63
5 月	96	2,788	2,961	3	50
6 月	96	2,691	2,867	2	40
7 月	95	2,799	2,962	2	43
8 月	96	2,892	2,955	2	43
9 月	95	2,731	2,858	2	43
10 月	94	2,851	2,942	2	43
11 月	96	2,795	2,865	2	43
12 月	95	2,905	2,961	3	65
31 年 1 月	96	2,822	2,958	3	77
2 月	94	2,510	2,655	3	60
3 月	95	2,782	2,906	3	76
合計		33,326	34,750		646
一日平均		91.3 名	95.2 名		1.8 名

※月末入所者数

※（　　）内は平成 29 年度実績

13　静岡市桜の園（社会福祉事業）

基本理念
「あなたらしさを応援します。」
・人権を尊重し、日々有効なサービスを展開します。そして常に生活の豊かさを求めます。

平成 30 年度目標及び結果

目標１　地域への情報発信を積極的に行います。

美和地区は地元の社会福祉法人が多く、その中では当施設の地域での認知度は高くない。地域の中で施設の理解が進み交流を深めていくために情報発信を積極的に行います。

広報誌の発行　・ボランティアの積極的な受け入れ

結果　地域のイベント（大茶会や茶工場祭りなど）に参加し、交流を図ったほか、内牧地区および安倍口学区の防災訓練に参加し、車椅子やＡＥＤの操作方法について説明する等行った。防災訓練では地域の他施設との連携もできた。

ボランティアを招き演奏会を開くなどボランティアの導入をすることができたが、定期的で日常的なボランティアの活動を取り入れるまでには至らなかった。

年２回広報誌を作成したが、広報誌の目的を把握し積極的に取り組むまでには至らなかった。

目標２　ニーズに基づいたサービス提供の見直しを図ります。

施設サービスの内容、質が利用者のニーズにあったものかどうか、第三者評価事業の受審結果や外部から有識者等を入れた委員会を組織し見直しを行っていきます。

結果　「桜の園未来委員会」を４回実施。外部から有識者等を招き、民営化の可能性を視野に入れた検討を行った。「選ばれる施設」となるためにという目標のもと行い、その中で得られたことについては、今年度以降、具体的な検討や実行する。例えば、研修や良い処遇が行われている施設に見学や聴き取りに行く予定。

目標３　施設の安定的な運営を図ります。

利用者の満足度を高めるとともに、職員も働きがいを感じるような職場環境の整備を行います。また、地域や学生からも選ばれ施設の運営が安定的に図られるように努めます。

処遇改善加算の取得　・実習生の受入体制の整備等大学との連携強化
収支（経営）のバランス

結果　利用者アンケートや入居者会、家族会を通じ、利用者の満足度の取り組みを行った。アンケートは昨年と内容を変更してできるだけ具体的にわかりやすい質問とし、利用者からは食事についての改善、家族からは同性介護についての意見などがあがった。出て来た意見は、対応可能なものから改善していく。

実習生を積極的に受入れ、丁寧な対応に心がけた。受入れの際、統一した対応ができるようにマニュアルの整備に取り組んだ。

処遇改善加算を取得し、生活支援員のモチベーション向上につなげる事が出来た。

年度当初からの欠員状態のうえ、職員の傷病、退職が相次ぎ、職員を募集しても

求人が来ないことから人材派遣を利用せざるを得ない状況が続き人件費の増大につながった。そうした中で利用率の低迷にも繋がり大幅な赤字となった。

障害者総合支援法に基づき、障害者が地域で安心して暮らせる社会の実現を目指し、利用者本位のサービスの提供を基本として利用者との対等な関係を構築する。

サービスの質の向上を図り、利用者の選択に応える。

障害者の個人としての尊厳を重視した福祉サービスの提供を目指す。

㊟（１）障害者支援施設事業（一種事業）（定員 80 名）

ア 施設入所支援（定員 50 名）、施設入所をともなう生活介護（定員 50 名）

福祉、医療、リハビリ、栄養等多職種が連携し、身体状況、健康状態の把握と対応を怠らず、標準的なサービスの見直しを行い、本人や家族の意向を汲み取りながら支援できるように心がけた。また、作業療法士による集団・個別リハビリを実施し、身体機能の維持に努めた。

・年間入所者数　４名（2 名）
・年間退所者数　４名（5 名）
・年間延べ在所者数　施設入所支援　16,094 名（16,909 名）
　生活介護　11,518 名（12,114 名）

一日平均利用人数	平成 30 年度計画・目標	平成 30 年度実績	平成 29 年度実績
施設入所支援	49 名	44.1 名	46.4 名
生活介護	49 名	44.3 名	46.6 名

疾病別人員　（平成 30 年４月１日　～平成 31 年３月 31 日）

病　　名	年間実人員（名）	構成比（%）
脳血管障害	6	11
脳性麻痺	16	29
脳外傷（頭部外傷）	6	11
脊髄損傷	6	11
下肢機能障害（上記以外）	8	14
特定疾病（難病等）	5	9
その他	9	16
計	56	100

月別在所（利用）者数　　（名）

区　分	入所支援		生活介護	
年　月	人数	延べ人数	人数	延べ人数
30年　4月	46	1,340	46	945
5月	45	1,372	45	1,024
6月	45	1,336	45	940
7月	46	1,384	46	988
8月	46	1,365	45	1,019
9月	45	1,312	45	880
10月	45	1,308	45	978
11月	47	1,357	47	998
12月	47	1,406	46	956
31年　1月	47	1,399	47	1,037
2月	46	1,188	45	848
3月	46	1,327	44	905
合　計	551	16,094	546	11,518
月平均	45.9	1341.1	45.5	959.8
一日平均		44.1		44.3

（入所支援日数365日・入所生活介護日数260日）

イ　生活介護（通所）　　定員30名（30名）

生活介護（通所）では、安全かつ安心して過ごせる場であることを前提に、常時介護を必要とする方に身体機能・生活能力の維持、向上のための援助及び創作的活動の機会の提供を行った。

・実利用人数　　42名　（50名）

・年間延べ利用者数　　4,344名（4,729名）

	平成30年度計画・目標	平成30年度実績	平成29年度実績
一日平均利用人数	21名	18.0名	19.5名

利用者数調　（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

定　員	年　間 新利用者数	年　間 退所者数	年　間 延べ利用者数	一日平均 利用者数
30 (30)	0 (3)	5 (6)	4,344 (4,729)	18.0 (19.4)

月別利用者数　　（名）

年　月	初日在籍者数	延べ人数
30年　4月	42	395
5月	41	387
6月	41	390
7月	39	377
8月	38	401
9月	37	301
10月	37	379
11月	37	357
12月	37	326
31年　1月	37	327
2月	37	339
3月	37	365
合　計	460	4344
月平均	38.3	362
一日平均		18.0

（年間通所日数　242日）

指（２）日中一時支援事業（公益事業）　〔生活介護（通所）空床利用〕

日中において一時的な見守りその他の支援を必要とする障害者に対して送迎・入浴・食事のサービスを提供した。

・実利用人数　　1名　(5名)
・年間延べ利用者数　　49名 (28名)

	平成30年度計画・目標	平成30年度実績	平成29年度実績
一日平均利用人数	空席利用	0.2名	0.4名

指（３）障害福祉サービス事業（短期入所）（二種事業）　　定員５名 (5名)

前年度に引き続き、年間を通じて緊急の要請に対応し受け入れを行った。家族の急な疾病等など地域で暮らす方々のニーズに対応した。

担当者会議へもできる限り積極的に出席し、その方の生活像を把握し、他機関との情報共有にも努めた。

・実利用人数　　35名　(39名)
・年間延べ利用者数　　996名 (824名)

	平成30年度計画・目標	平成30年度実績	平成29年度実績
一日平均利用人数	3名	2.7名	2.3名

月別在所（利用）者数　（年間通所日数　242 日）　　（名）

区　分	日中一時		短期入所	
年　月	人数	人数	人数	延べ人数
29 年　4 月	1	4	18	79
5 月	1	5	20	104
6 月	1	4	18	104
7 月	1	5	18	97
8 月	1	4	20	111
9 月	1	2	16	103
10 月	1	5	20	109
11 月	1	4	18	74
12 月	1	4	13	68
30 年　1 月	1	4	9	29
2 月	1	4	7	17
3 月	1	4	18	98
合　計	12	49	195	993
月平均	1.0	4.0	16.2	82.7
一日平均		0.2		2.7

指（４）静岡市桜の園城北館　障害福祉サービス事業（生活介護）（二種事業）

定員 20 名（20 名）

城北館は、平成 28 年度より静岡市桜の園の従たる事業所ではなく、単独の生活介護事業所となった。前年度に引き続き、外出の機会を増やし、徒歩で行ける近隣のみならず、目的地を設定し、数人で外出できる機会も提供した。

平成 29 年度は、利用者で成人を祝う対象となる利用者がいなかったが、地区社協の方と音楽会を企画・開催した。

・実利用人数　　19 名　（19 名）
・年間延べ利用者数　　2,947 名（3,160 名）

	平成 30 年度計画・目標	平成 30 年度実績	平成 29 年度実績
一日平均利用人数	14 名	12.2 名	13.0 名

利用者数調　　（平成 30 年４月 1 日～平成 31 年３月 31 日）

定　員	年　間 新利用者数	年　間 退所者数	年　間 延べ利用者数	一日平均 利用者数
20 (20)	0 (3)	0 (3)	2,947 (3,160)	12.2 (13.0)

月別利用者数　　（名）

年　月	初日在籍者数	延べ人数
29年　4月	19	243
5月	19	256
6月	19	269
7月	19	258
8月	19	280
9月	19	208
10月	19	278
11月	19	238
12月	19	201
30年　1月	19	237
2月	19	233
3月	19	246
合　計	228	2,947
月平均	19.0	245.5
一日平均		12.2

（年間通所日数　243日）

※(　　)内は平成 29 年度実績

14　静岡市心身障害者ケアセンター（社会福祉事業）

基本理念

一人ひとりが地域の一員として自立した日常生活を営むことができるよう、利用者が主役となり地域福祉に貢献できる施設を目指します。

平成 30 年度目標及び結果

目標１　利用者の意向にできる限り沿えることが出来るように努める。

結果　(1)希望する自立訓練の日数を利用できるよう努めた。

(2)訓練、送迎、入浴の見直しを随時行い、満足いただける環境づくりに努めた。

利用者アンケートのサービス満足度　目標：78%以上　結果：81%（74%）

目標２　多様化する障害や個人の状況に即した適切な対応ができるように努める。

結果　(1)利用者の障害の種別等に即した適切な対応ができるよう、職員の研修への積極的な参加を進めた。

職員研修参加回数　目標：25 回（延べ参加者数　30 人）

結果：33 回（延べ参加者数　39 人）

※ 平成 29 年度：31 回（延べ参加者数　41 人）

(2)個人の状況に即した対応や支援の幅を広げるため、個別の担当者会議等に積極的に参加し情報収集するとともに、各機関との関係性や連絡体制の強化に努めた。

(3)個人の適性に即した自立訓練のプログラムの見直しに努めた。

目標３　自立訓練新規利用者の確保に努める。

結果　(1)対象となる地域の相談支援事業所と連携し、自立訓練終了後、個人にあった障害福祉サービス事業所等を提案できるように努めた。

(2)空席利用にて日中一時支援を利用されている方について、個別面談、相談等を行いながら他障害福祉サービス事業所の紹介や見学の同伴等を必要に応じて行い、新規自立訓練利用者の受入れ環境を整備した。

新規利用者　：自立訓練（機能訓練）４名　自立訓練（生活訓練）6 名

※平成 29 年度：自立訓練（機能訓練）８名　自立訓練（生活訓練）9 名

目標４　地域とのつながりに努める。

結果　学校等の見学を積極的に受け入れ、ケアセンターの周知につながる機会を多く持つよう努めた。

※地域交流祭実施　１回

済生会フェア参加　１回

特別支援学校　連絡協議会　参加　1 回

見学・体験対応　2 回　計　11 名

ボランティア受け入れ　37 回　計　37 名

静岡市心身障害者ケアセンターは、静岡市の指定管理者として自立訓練事業（機能訓練・生活訓練）を実施しており、自立訓練のサービス支給期間が終了した後、継続利用を希望される方については、空席利用として日中一時支援事業を実施した。

平成27年度より新たな指定管理を受け、引き続き利用者の要望にできる限り応えることができるように、更なるサービスの向上と利用者確保に努めた。

また、併設の障害者生活支援センター城東は、静岡市障害者等相談支援事業として市より委託を受け、委託支援事業及び特定相談・障害児相談支援事業を実施した。

疾病別人員　※平成31年３月31日時点

病　　名	実人員（名）	構　成　比（%）
（機能訓練）		
脳性麻痺	3	18%
脳血管障害	2	12%
脳外傷	2	12%
脊椎損傷	0	0%
その他	10	58%
計	17	100%
（生活訓練）		
知的障害	8	34%
脳性麻痺	2	9%
ダウン症	2	9%
自閉症	2	9%
その他	5	21%
精神障害	4	18%
計	23	100%

指（１）障害福祉サービス事業

ア　自立訓練（機能訓練）（二種事業）（定員20名）

機能訓練の利用者は、身体機能の維持・向上、生活上の必要な訓練を、静岡医療福祉センターから訓練スタッフの派遣を受けて実施した。

区　　分	平成30年度 計画・目標	平成30年度 実績
一日平均利用者数	5名	5.2名

月別利用者数（年間開所日数　241日）

区　分	機能訓練		区　分	機能訓練	
年　月	実人員(名)	延人数(名)	年　月	実人員(名)	延人数(名)
30年　4月	16	109	31年　1月	16	91
5月	16	113	2月	17	104
6月	16	105	3月	17	117
7月	17	101	合　計		1,242
8月	15	114			
9月	15	76	月平均		103.5
10月	17	112			
11月	15	104	一日平均		5.2（4.7）
12月	16	96			

イ　自立訓練（生活訓練）（二種事業）（定員10名）

生活訓練の利用者は、精神障害の合併により長い間、ご自宅で過ごされている方や就労事業所等への通所が困難になった方、障害特性による配慮の必要な方が利用された。

区　　分	平成30年度 計画・目標	平成30年度 実績
一日平均利用者数	8名	7.7名

月別利用者数（年間開所日数　241日）

区　分	生活訓練		区　分	生活訓練	
年　月	実人員(名)	延人数(名)	年　月	実人員(名)	延人数(名)
30年　4月	29	158	31年　1月	24	135
5月	29	172	2月	24	128
6月	29	183	3月	23	142
7月	27	168	合　計		1,845
8月	26	168			
9月	26	137	月平均		153.7
10月	25	163			
11月	24	156	一日平均		7.7（8）
12月	25	135			

（２）日中一時支援事業（公益事業）（空席利用）㊞

27年度から自立訓練の新規利用の確保・拡大に努めてきたため、空所利用である日中一時支援の利用者は減少した。自立訓練終了後、月1回程度のご利用希望の方を受け入れた。

区　　分	平成30年度 計画・目標	平成30年度 実績
一日平均利用者数	11名	10.3名

月別利用者数（年間開所日数　241日）

区　分	日中一時支援		区　分	日中一時支援	
年　月	実人員(名)	延人数(名)	年　月	実人員(名)	延人数(名)
30年　4月	60	210	31年　1月	58	187
5月	59	215	2月	58	196
6月	57	219	3月	57	198
7月	57	212	合　計		2,472
8月	56	236			
9月	57	177	月平均		206
10月	57	228			
11月	58	208	一日平均		10.3（11.6）
12月	58	186			

（３）特定相談支援事業・障害児相談支援事業（二種事業）委

ア　障害者等相談支援事業

障害者生活支援センター城東は、身体障害を中心に在宅の障害者・家族の相談に関わり、必要な機関との連絡・調整を行い、支援を行った。

(ｱ)年間相談延べ件数　2,691 件　（内、ピアカウンセリング 185 件）　(2,155 件)
年間相談延べ人員　　700 名　（内、ピアカウンセリング 170 名）　(614 名)

区　　分	平成 30 年度 計画・目標	平成 30 年度 実績
一日平均利用件数（実人員）	7 件	7.6 件

(ｲ)その他の活動　身体障害者生活支援事業　66 回　(87 回)
・社会資源を活用するための支援（外出支援等）　39 回
・社会生活力を高めるための支援（パソコン教室）　27 回

(ｳ)参加会議　主催した個別支援会議　15 回　(13 回)
参加した個別支援会議　22 回　(22 回)
連絡調整会議等　24 回　(25 回)

イ　障害福祉サービス等の利用計画の作成（特定相談・障害児相談支援）

障害者生活支援センター城東は、静岡市の「指定相談支援事業所」として、障害福祉サービスの利用（身体・知的・精神）に関するサービス利用計画書を作成した。

サービス等利用計画作成件数

区　　分	平成 30 年度 計画・目標	平成 30 年度 実績
月平均件数※モニタリング含む	18 件	28.4 件
年間件数※モニタリング含む	216 件	341 件 (内児童 4 件)

※今年度より、件数・人員のカウント方法を変更した。

※（　　）内は平成 29 年度実績

15　ワーク春日（社会福祉事業）

基本理念
明るく楽しく働くあなたを応援します。

（１）就労継続支援事業Ｂ型（二種事業）（定員 30 名）

平成 30 年度目標及び結果（就労継続Ｂ型事業所）

目標１　就労支援事業の受注を確保し、工賃の向上を目指す。
受注の確保や拡大に努め、利用者が充実した作業を毎日行えるよう支援し、安定した工賃の支払いに努める

結果　受注に関しては、新規に２種類の軽作業を開拓し作業量が僅かではあるが増加し、多くの利用者が関われるようになった。年度途中で点字指導員が辞めたため選挙関連の受注は減少したが、軽作業での収入が増えた事や、利用者の数が減少したこと等の理由により、結果として一人当たりの平均工賃は月 15,447 円で、前年度に比べ 1,226 円増加した。

目標２　利用者に多様な作業を提供する。
通年で同じ作業を繰り返さないよう、作業メニューを増やすことで飽きがこないようにし、個々の能力に応じた作業が行えるよう工夫する

結果　新規に受注した作業が追加されたことで、以前よりも多くの利用者が作業に関われるようになった。単純作業なので誰でもが行えるため、以前から行っている袋詰めなどと組み合わせ、同じ作業ばかりを行わない工夫が出来るようになった。

目標３　給食メニューの多様化を図る。
現在も年中行事や季節にあったメニューで給食提供をしており、食べ残しも殆んどない状況であるが、さらに満足度を高めるため、一年を通じて利用者が望む給食が提供できるよう、嗜好調査や希望の献立などを検証し、多様なメニューを提供する

結果　利用者の嗜好調査を 2 回行い、新しいメニューを追加したり、味付けに変化をもたせるなど、利用者の希望を反映できよう工夫した。今後も定期的に嗜好調査を行い、満足度を高められるよう努力をしていく。

	平成 30 年度計画・目標	平成 30 年度実績	平成 29 年度実績
一日平均利用人数	25.5 名	26.7 名	25.5 名
平均工賃月額	―	15,447 円	14,221 円

●月別利用者数　（名）

	利用登録者数	新規利用者数	退所者数	開所日数	利用延べ人数	一日平均利用者数
30年4月	38	1	0	20	529	26.5
5月	37	0	1	21	537	25.6
6月	37	0	0	21	527	25.1
7月	38	1	0	21	561	26.7
8月	38	1	1	20	532	26.6
9月	37	0	1	18	479	26.6
10月	36	0	1	22	591	26.9
11月	35	0	1	21	566	27.0
12月	35	0	0	19	517	27.2
31年1月	36	1	0	18	484	26.9
2月	36	0	0	19	517	27.2
3月	36	0	3	20	551	27.6
合計	---	4	8	240	6,391	26.7

●障害別利用者数（平成29年3月現在）　（名）

		男	女	合計	（備考）
身体障害	視覚	1	3	4	知的との重複1名
	聴覚	2	－	2	視覚との重複1名
	肢体不自由	12	6	18	知的との重複2名 精神との重複1名
	内部	2	－	2	
知的障害		3	4	7	身体との重複1名 精神との重複1名
精神障害		3	0	3	
合　計		23	13	36	

（２）福祉ホーム事業（二種事業）（定員６名）

新規利用者はなく、2 名の利用にとどまった。個別の課題には丁寧に対応した。また、安心かつ快適な居住の場を提供することができた。地域生活に向けては個別の相談にのっている。

	平成30年度計画・目標	平成30年度実績	平成29年度実績
一日平均利用人数	4名	2.0名	3.1

※(　　)内は平成 29 年度実績

16　静岡済生会看護専門学校（公益事業）

基本理念

　済生の精神にもとづき、対象となる人間を生命尊厳や個人が尊重されるかけがえのない存在として捉え、それぞれの健康段階にある人に看護が実践できるような専門職業人を目指す。

平成 30 年度目標及び結果

目標１　**看護師としての基礎的能力の育成と、済生の理念を基にした看護が実践できる学生を育成する。**

目標２　**看護師国家試験の全員合格を目指す。**

目標３　**講義・演習・実習へと学生自身が学びを継続し、深めるよう、講義内容を工夫する。また、教育目標を達成できるよう臨床と協働する。**

目標４　**教員の経験に応じた教育研修・臨床研修を行い、教育力の向上及び人材育成を図る。**

結果　看護を必要とする人を総合的に理解する能力を養い、看護に必要な知識・技術を習得し、それぞれの健康段階にある人に応じた看護が実践できる基礎的能力を養った。

保健・医療・福祉に貢献できる看護師を育成することを目的に、それぞれの学年目標を掲げ、学校での基礎的教育や臨地実習での技術習得に励んだ結果、対象の学年においては、国家試験全員合格など、ほぼ目標を達成することができた。

本年度においては、次のとおり 119 名（118 名）の看護師養成教育を行った。

教育課程の適正な運用を図り、個々の学生への学習指導を充実・強化して実践した。さらに、臨地実習においては、臨床指導者と教員との連携を図り、学生への指導体制を整えて協働して指導に当たった。学生一人一人の理解度に応じた学習を支援し、その結果、受験生 38 人全員が国家試験に合格することができた。

看護師としての適性がある学生を確保するため、学校説明会やオープンスクールを開催するとともに、県内のナースセンター主催の看護学校進路説明・相談会への参加や高等学校訪問により、看護学生を目指す学生の募集に努めた。

（１）学年別在籍者数（定員　120 名）

区分	１年次生	２年次生	３年次生	計
平成３０年度実績	41 名	40 名	38 名	119 名
平成２９年度実績	40 名	40 名	38 名	118 名

（２）入学試験結果状況

（名）

区分		平成 31 年度	平成 30 年度
受験者	推薦入試	29	28
	社会人入試	13	18
	一般入試	85	98
	計	127	144
合格者	推薦入試	19	17
	社会人入試	1	3
	一般入試	34	44
	計	54	64
入学者	推薦入試	19	17
	社会人入試	1	3
	一般入試	16	20
	計	36	40

（３）卒業生の状況

（名）

区分	平成 30 年度実績	平成 29 年度実績
済生会総合病院	34	36
その他県内病院	0	2
県外病院	0	0
進学	4	0
その他	0	0
計	38	38

（４）看護師国家試験結果状況

（名・％）

	平成 30 年度実績			平成 29 年度実績		
	受験者数	合格者数	合格者率	受験者数	合格者数	合格者率
静岡済生会看護専門学校	38	38	100.0	38	38	100.0
県内看護専門学校（３年課程）	－	－	97.5	－	－	97.5

平成 29、30 年度合格率は、厚生労働省から入手した新卒者の合格率である。

平成 30 年度の全国（３年課程）の合格率は 95.5％（厚生労働省）となっている。

※(　　)内は平成 29 年度実績

17　静岡済生会訪問看護ステーションおしか（公益事業）

基本理念

障害や疾病を持ち、地域で生活している人々に対して、住み慣れた地域で、安心して「その人らしく心豊な生活」ができるよう、温かく思いやりの心で質の高い看護を提供します。

平成 30 年度目標及び結果

目標１　利用者の要望に沿い、安全、安心と信頼を得られる質の高い看護を提供する。

結果　部署内研修の年間計画によって年 10 回定期的に研修を行い、平均参加率約 89%（常勤 93%非常勤 81%）だった。院内外の研修に参加を促し、それぞれが複数回の参加を行った。

苦情報告、インシデント、アクシデント報告の徹底を促した。結果は年報に掲載した。また、静岡市介護サービス情報公表を行った。

外部講師による接遇・コンプライアンス研修会を行い、全体会議で周知徹底を促した。

事例検討や日々のカンファレンスで利用者の情報や問題の共有を図った。

目標２　利用者・地域のニーズを知り、保健、医療、介護・福祉サービスとの密接な連携を図る。

結果　診療所の医師や他職種との連絡調整を積極的に行なった。

利用者満足度調査実施調査を行った。満足・やや満足が 99%と好意的な意見が多かった。

広報活動として毎月のおたより、年報の発行を行い訪問看護の活動内容を理解して頂くようにした。

サービス担当者会議（172 件／年）、退院前カンファレンス（156 件／年）へ積極的に参加を行い他機関、他職種との連携を積極的に行った。

目標３　健全で安定した運営をめざす。

結果　職員の入れ替わりはあったが、訪問延べ件数 16.831 件と増加している。短期間利用者の増加や施設入所、病院入院が増え訪問件数は目標達成率 91%に留まった。

看護体制強化加算取得により介護保険の単価が上がった。人件費は増えているが計上収支は黒字決算となった。

医療依存度の高い方、ターミナルケアなど済生会病院相談室、小鹿苑居宅支援事業所との連携をスムースに行うように努めた。

目標４　職場環境の充実を図り、人材の確保に努める。

結果　連続休暇、携帯待機明けの有給が取れるよう配慮した。有給消化率（常勤 48.7%非常勤 68.9%）

年２回及び必要時に個人面接を実施し、職員の就労、生活状況の把握に努めた。

（１）訪問看護事業実績

平成 30 年度は、介護保険、医療保険を含め訪問延件数は 16,831 件であり、平成 29 年度に比べ 1,098 件（介護保険 810 件増、医療保険 277 件増、その他 11 件増）増加した。また、訪問延件数のうち、6,878 件（5,875 件）は、サテライトみかど台分である。

平成 30 年度目標件数　18,500 件

平成 30 年度実績件数

介護保険延べ件数	14,353 件	(13,543 件)
医療保険	2,416 件	(2,139 件)
その他(実費訪問)	62 件	(51 件)
合　　計	16,831 件	(15,733 件)

月平均　1403 件（1,311 件）１日平均 57.6 件（53.7 件）

疾病別　（平成 30 年４月１日～平成 31 年３月 31 日）

病　　名	人　員（名）	構成比（%）
神経系疾患	36	8.5
呼吸器系疾患	31	7.3
精神障害	24	5.7
脳血管系疾患	57	13.5
骨格系及び結合組織疾患	33	7.8
悪性腫瘍	90	21.2
その他	152	36.0
計	423	100.0

月別訪問者数

年　　月	取扱実人員（名）	延　件　数（件）
30 年４月	255	1,308
５月	256	1,355
６月	260	1,400
７月	263	1,411
８月	265	1,535
９月	263	1,328
10 月	265	1,492
11 月	262	1,494
12 月	260	1,338
30 年１１月	265	1,389
２月	262	1,383
３月	259	1,398
計	3,135	16,831
月平均	261.3	1402.6
一日平均		57.6

（年間訪問日数　292　日）

年齢別性別訪問者数　（平成 30 年４月１日～平成 31 年３月 31 日）（単位：名）

年齢 性別	～　59	60～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90　～	合計
男性	19	7	16	26	35	37	30	24	194
女性	10	9	5	14	21	37	56	77	229

（２）グループホーム等への訪問看護

委託契約したグループホーム１施設に週１回の訪問をし、入居者の日常的な健康管理及びグループホーム職員からの相談への対応、また、必要に応じ医師との連絡調整及び指示書の発行を受け、医療処置等通常の訪問看護を行った。